

統合失調症患者調査 結果報告書

2018年3月27日
株式会社QLife

- **調査主体** : 株式会社QLife(キューライフ)
■ **実施概要** :
- (1) 調査対象: 現在、薬物治療中の統合失調症患者さん
 - (2) 有効回収数: 200人
 - (3) 調査方法: インターネット調査
 - (4) 調査時期: 2018年2月7日～ 2月12日

■ **本調査に関するお問い合わせ先**

株式会社QLife QLife編集部 田中智貴 /TEL : 03-6685-2515 E-mail : info@qlife.co.jp

◆働く統合失調症患者は40%。就職や復職を目指し就労移行支援事業を利用している患者も7.5%存在するものの、「働いていない」が多数派

調査に参加した統合失調症患者の41.0%が「働いていない」と回答した。次いで、「働いている（障がい者枠以外）」が26.0%、「働いている（障がい者枠）」が14.0%だった。「就職・復職を目指して就労移行支援事業を利用している」と答えた患者は7.5%だった。

◆自己判断での機能の全体的評定（GAF）は100～90点が最多。3/4が50点以上

統合失調症患者の状態を表す指標「機能の全体的評定（GAF）」について、10段階から患者本人による自己判断で選択した結果、「100～90点」が最も多く19.0%、次いで「90～81点」（17.5%）、「60～51点」（14.5%）と続いた。30点未満は13.5%だった。

◆薬を飲み忘れた経験がある患者は66.5%。「時々ある」が最多

治療薬を飲み忘れた経験については、患者の66.5%が「ある」と回答した。飲み忘れの頻度は「時々ある」が36.5%と最も多く、「2～3回ある」（19.0%）、「1度だけある」（6.0%）、「頻繁にある」（5.0%）だった。飲み忘れたことがないと回答したのは33.5%だった。

◆患者の49.5%は毎日の服薬を負担に感じている

服薬に関する負担感については、「あまり負担だと思わない」が26.0%と最も多かった。次いで、「まったく負担に思わない」（24.5%）と、負担を感じていない患者が過半数を占めた。何らかの負担を感じている患者でも、「負担ではあるが仕方がないと思っている」（24.0%）患者が多く、「ときどき負担を感じる」（16.0%）、「とても負担に感じている」（9.5%）と続いた。

◆負担を感じる理由は、「飲み忘れていないか不安」「薬を持っていくのを忘れそうになる」「うまく飲み込めない」など

毎日の服薬が日常生活で支障になっていると感じる点に関する自由回答では、「薬を飲み忘れていないか、不安がある」「出かけたときに、薬を忘れてしまうことがある」、「友達と外出した時などわからないように飲むのに苦労する」「毎日飲むのは面倒」「うまく飲み込めない」などが挙げられた。

◆2～4週間に1回、通院時に投与する注射薬の存在、「知らない」が67.0%

統合失調症治療薬に、2～4週間に1回投与する注射薬があることについて、注射薬の認知度は「知らない」が67.0%と最も多く、「知っている」は33.0%だった。「知っている」と答えた患者のうち、注射薬を使ったことがある患者は16.7%だった。興味はあるが使用したことのない患者における使用意向は、「使いたくない」が49.7%と最多で、「使ってみよう」は17.2%だった。

調査実施概要

▼調査対象内訳

(1) 性別・年代

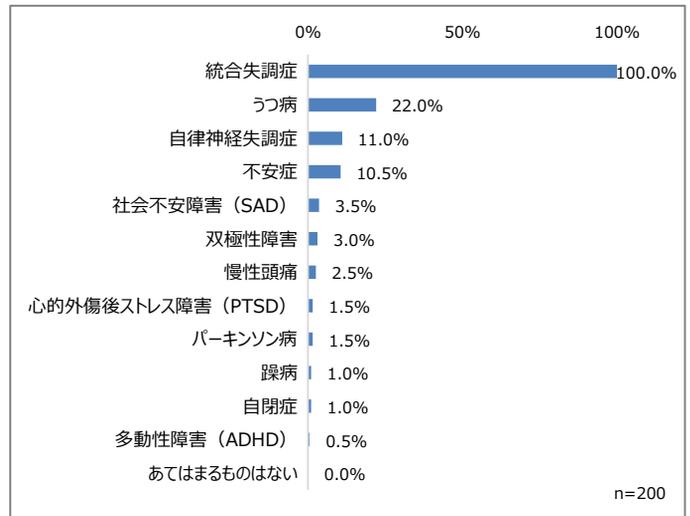
n=200			
	男性	女性	n
20代以下	4	6	10
	2.9%	9.8%	5.0%
30代	29	19	48
	20.9%	31.1%	24.0%
40代	56	25	81
	40.3%	41.0%	40.5%
50代	43	9	52
	30.9%	14.8%	26.0%
60代以上	7	2	9
	5.0%	3.3%	4.5%
総計	139	61	200
	100%	100%	100%

(2) 都道府県

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県
4.0%	1.0%	3.5%	2.5%	0.0%	2.5%	0.5%	1.5%	3.0%	2.0%	8.5%	5.5%
東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
15.0%	5.5%	2.0%	1.5%	0.0%	0.5%	0.0%	1.5%	1.5%	2.0%	5.5%	1.5%
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
1.5%	1.5%	5.0%	4.0%	0.5%	0.5%	1.5%	0.0%	1.5%	2.5%	2.0%	0.0%
香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
0.5%	1.0%	0.5%	1.5%	1.5%	1.0%	1.0%	1.0%	0.0%	0.5%	0.0%	

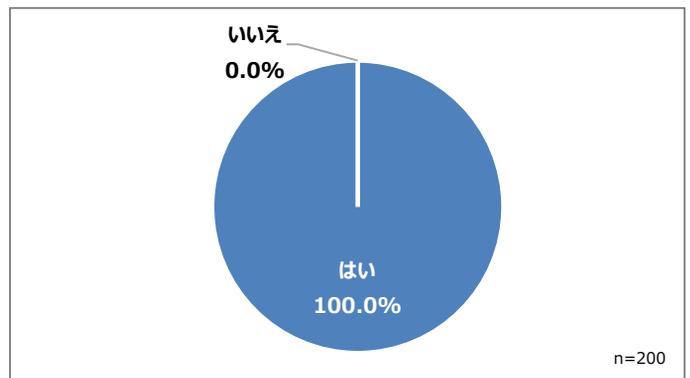
(3) 現在治療中の疾病【複数回答】

n=200	(MA)	
	n	%
うつ病	44	22.0%
自律神経失調症	22	11.0%
統合失調症	200	100.0%
不安症	21	10.5%
躁病	2	1.0%
双極性障害	6	3.0%
慢性頭痛	5	2.5%
心的外傷後ストレス障害 (PTSD)	3	1.5%
自閉症	2	1.0%
多動性障害 (ADHD)	1	0.5%
社会不安障害 (SAD)	7	3.5%
パーキンソン病	3	1.5%
あてはまるものはない	0	0.0%
総数	200	158.0%



(4) 統合失調症の治療のために服薬中か

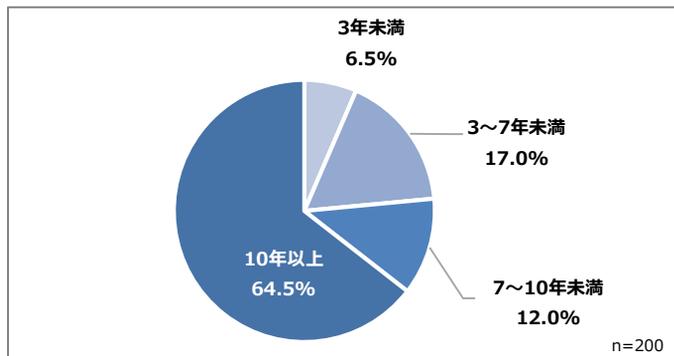
n=200	(SA)	
	n	%
はい	200	100.0%
いいえ	0	0.0%
総数	200	100.0%



Q1.診断されてどれくらい経ちますか。

統合失調症と診断されて「10年以上」経つと答えた患者が64.5%と最も多く、次いで「3～7年未満」(17.0%)、「7～10年未満」(12.0%)と続いた。3年未満は6.5%だった。

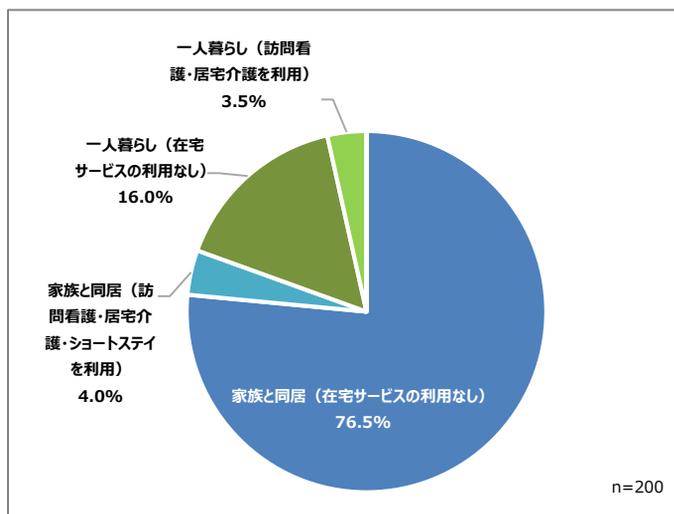
n=200	(SA)	
	n	%
3年未満	13	6.5%
3～7年未満	34	17.0%
7～10年未満	24	12.0%
10年以上	129	64.5%
総数	200	100.0%



Q2.あなたのお住まいについてあてはまるものを教えてください。

「家族と同居（在宅サービスの利用なし）」が最も多く76.5%を占めた。「一人暮らし（在宅サービスの利用なし）」も16.0%いた。訪問看護や居宅介護など在宅サービスの利用者は7.5%だった。

n=200	(SA)	
	n	%
家族と同居（在宅サービスの利用なし）	153	76.5%
家族と同居（訪問看護・居宅介護・ショートステイを利用）	8	4.0%
一人暮らし（在宅サービスの利用なし）	32	16.0%
一人暮らし（訪問看護・居宅介護を利用）	7	3.5%
グループホーム・ケアホーム入居中	0	0.0%
老人ホーム入居中	0	0.0%
入院中	0	0.0%
その他	0	0.0%
総数	200	100.0%



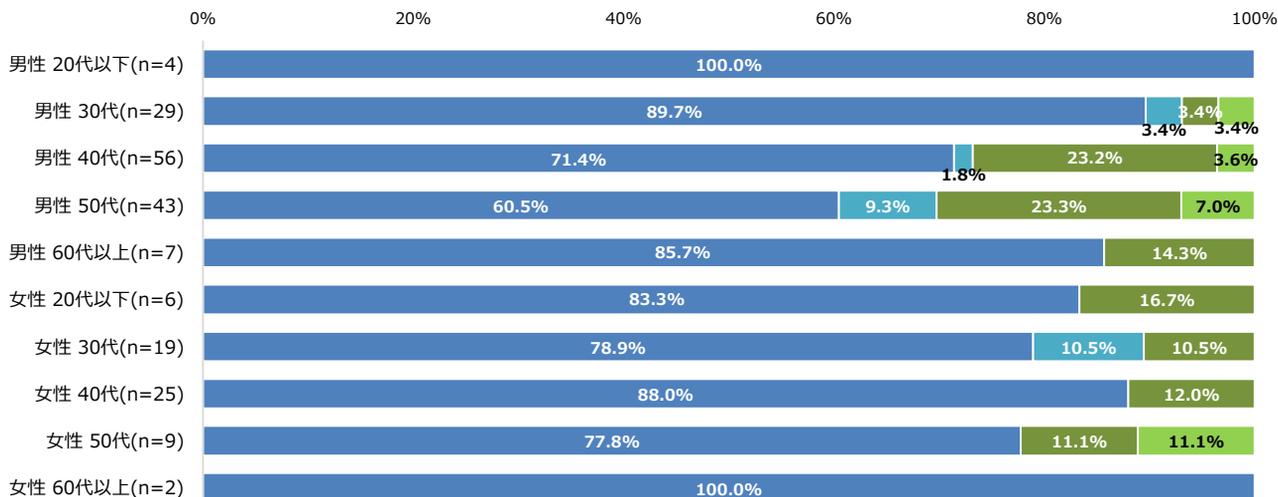
性・年代別×Q2

「一人暮らし」の割合は、50代男性（30.3%）が最も多く、40代男性（26.8%）がそれに続いた。訪問看護や居宅介護などの在宅サービスの利用率では、家族と同居している30代女性で10.5%、家族と同居している50代男性で9.3%だった。

	(在宅サービスの利用なし) 家族と同居	(訪問看護・居宅介護・ショートステイを利用) 家族と同居	(在宅サービスの利用なし) 一人暮らし	(訪問看護・居宅介護を利用) 一人暮らし	グループホーム入居中	老人ホーム入居中	入院中	その他	n
男性 20代以下(n=4)	4	0	0	0	0	0	0	0	4
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30代(n=29)	26	1	1	1	0	0	0	0	29
	89.7%	3.4%	3.4%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40代(n=56)	40	1	13	2	0	0	0	0	56
	71.4%	1.8%	23.2%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50代(n=43)	26	4	10	3	0	0	0	0	43
	60.5%	9.3%	23.3%	7.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 60代以上(n=7)	6	0	1	0	0	0	0	0	7
	85.7%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20代以下(n=6)	5	0	1	0	0	0	0	0	6
	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30代(n=19)	15	2	2	0	0	0	0	0	19
	78.9%	10.5%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 40代(n=25)	22	0	3	0	0	0	0	0	25
	88.0%	0.0%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50代(n=9)	7	0	1	1	0	0	0	0	9
	77.8%	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60代以上(n=2)	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

性・年代別×Q2 続き

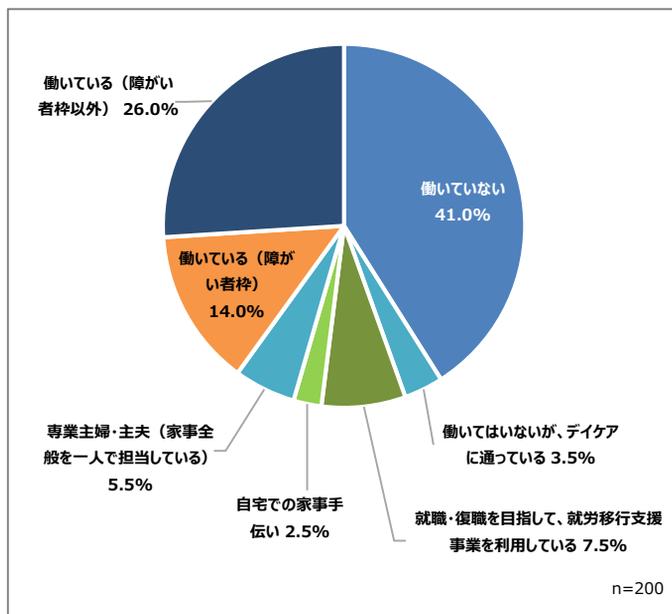
■ 家族と同居（在宅サービスの利用なし） ■ 家族と同居（訪問看護・居宅介護・ショートステイを利用） ■ 一人暮らし（在宅サービスの利用なし） ■ 一人暮らし（訪問看護・居宅介護を利用）



Q3.あなたは現在、働いていますか。あてはまるものを教えてください。

「働いていない」が41.0%で最も多かった。次いで、障がい者枠以外で「働いている」(26.0%)、障がい者枠で「働いている」(14.0%)、「就労移行支援事業を利用している」(7.5%)と続いた。

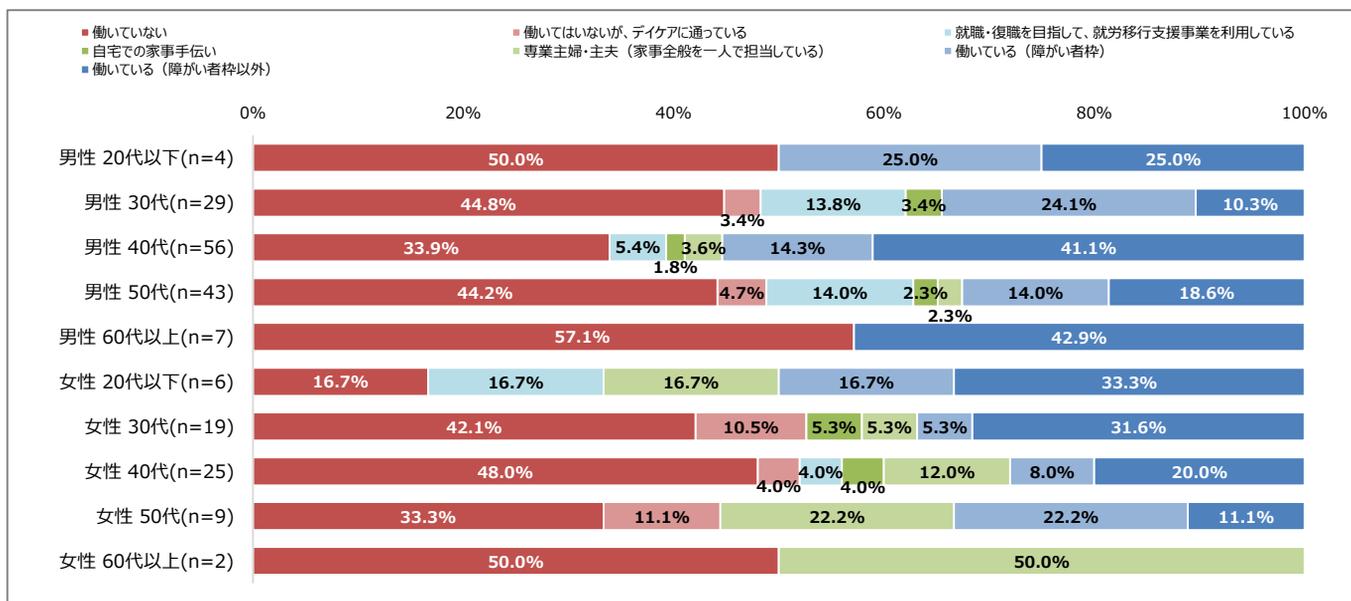
	n=200 (SA)	
	n	%
働いていない	82	41.0%
働いてはいないが、デイケアに通っている	7	3.5%
就職・復職を目指して、就労移行支援事業を利用している	15	7.5%
自宅での家事手伝い	5	2.5%
専業主婦・主夫 (家事全般を一人で担当している)	11	5.5%
働いている（障がい者枠）	28	14.0%
働いている（障がい者枠以外）	52	26.0%
学校に通っている	0	0.0%
その他	0	0.0%
総数	200	100.0%



性・年代別×Q3

「働いている」と答えた患者が最も多かったのは40代男性で55.4%だった。10例以上の回答があった年代のうち、30代男性（34.4%）、50代男性（32.6%）、30代女性（36.9%）、40代女性（28%）と、患者の3割程度が就労していた。

	働いていない	働いていないが、デイケアに通っている	就職・復職を目標として、就労移行支援事業を利用している	家事手伝いの自宅での	専業主婦・主夫（家事全般を一人で担当している）	働いている（障がい者枠）	働いている（障がい者枠以外）	通っている（学校）	その他	n
男性 20代以下(n=4)	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	4
	13	1	4	1	0	7	3	0	0	29
男性 30代(n=29)	44.8%	3.4%	13.8%	3.4%	0.0%	24.1%	10.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	19	0	3	1	2	8	23	0	0	56
男性 40代(n=56)	33.9%	0.0%	5.4%	1.8%	3.6%	14.3%	41.1%	0.0%	0.0%	100.0%
	19	2	6	1	1	6	8	0	0	43
男性 50代(n=43)	44.2%	4.7%	14.0%	2.3%	2.3%	14.0%	18.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	4	0	0	0	0	0	3	0	0	7
男性 60代以上(n=7)	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	1	0	1	0	1	1	2	0	0	6
女性 20代以下(n=6)	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	2	0	1	1	1	6	0	0	19
女性 30代(n=19)	42.1%	10.5%	0.0%	5.3%	5.3%	5.3%	31.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	12	1	1	1	3	2	5	0	0	25
女性 40代(n=25)	48.0%	4.0%	4.0%	4.0%	12.0%	8.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	3	1	0	0	2	2	1	0	0	9
女性 50代(n=9)	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	22.2%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%
	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
女性 60代以上(n=2)	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

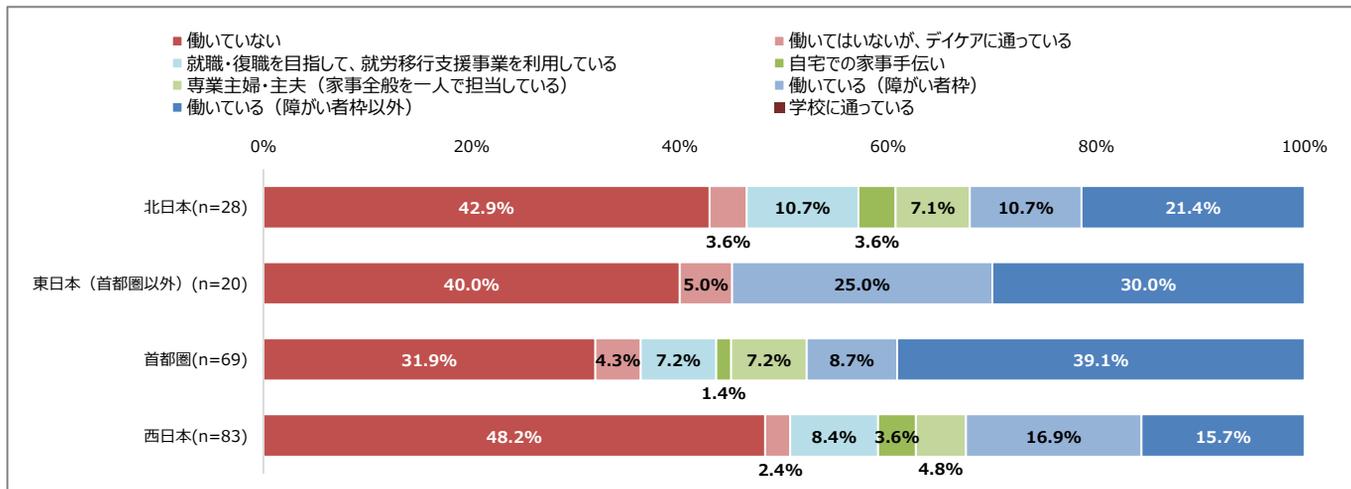


居住地域×Q3

居住地域別に就労状況をみると、首都圏では「働いている（障がい者枠以外）」と答えた患者が最も多く（39.1%）、首都圏以外の地域では、北日本、東日本、西日本とも、「働いていない」との回答が最も多かった（それぞれ42.9%、40.0%、48.2%）。

	働いていない	働いていないが、デイケアに通っている	就職・復職を目標として、就労移行支援事業を利用している	家事手伝いの自宅での	専業主婦・主夫（家事全般を一人で担当している）	働いている（障がい者枠）	働いている（障がい者枠以外）	通っている（学校）	その他	n
北日本(n=28)	42.9%	3.6%	10.7%	3.6%	7.1%	10.7%	21.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	1	0	0	0	5	6	0	0	20
東日本（首都圏以外）(n=20)	40.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	30.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	22	3	5	1	5	6	27	0	0	69
首都圏(n=69)	31.9%	4.3%	7.2%	1.4%	7.2%	8.7%	39.1%	0.0%	0.0%	100.0%
	40	2	7	3	4	14	13	0	0	83
西日本(n=83)	48.2%	2.4%	8.4%	3.6%	4.8%	16.9%	15.7%	0.0%	0.0%	100.0%

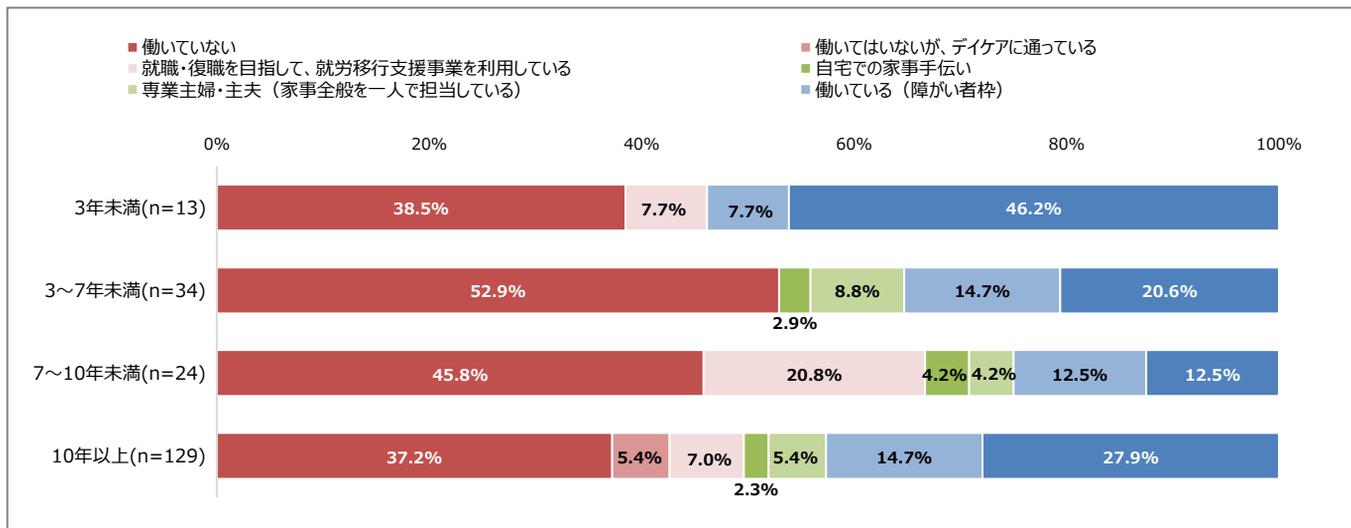
居住地域×Q3 つづき



Q1 罹患歴×Q3

診断後の年数別の就労状況では、診断後3年未満の患者の53.9%が働いていると回答した。診断後10年以上が経過している患者の42.6%、3～7年未満では35.3%、7～10年未満では25%が働いていると回答した。

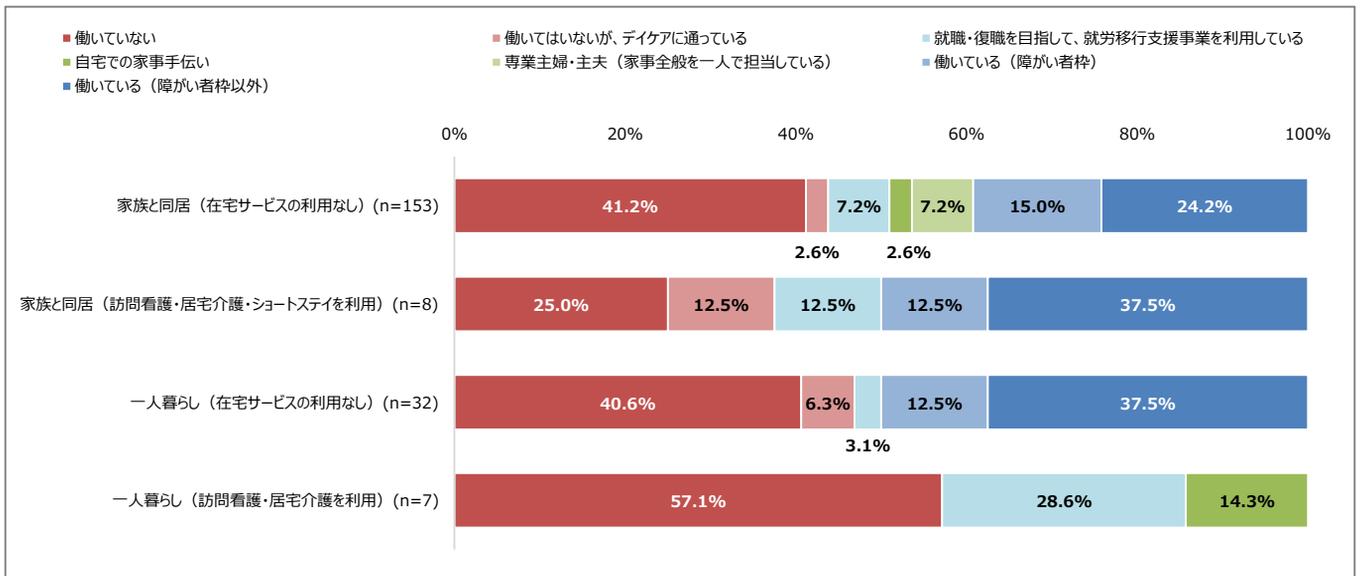
	働いていない	働いていないが、デイケアに通っている	就職・復職を目指して、就労移行支援事業を利用している	自宅での家事手伝い	(家事全般を一人で担当している) 専業主婦・主夫	(障がい者枠) 働いている	(障がい者枠以外) 働いている	学校に通っている	その他	n
3年未満 (n=13)	5	0	1	0	0	1	6	0	0	13
	38.5%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%	46.2%	0.0%	0.0%	100.0%
3～7年未満 (n=34)	18	0	0	1	3	5	7	0	0	34
	52.9%	0.0%	0.0%	2.9%	8.8%	14.7%	20.6%	0.0%	0.0%	100.0%
7～10年未満 (n=24)	11	0	5	1	1	3	3	0	0	24
	45.8%	0.0%	20.8%	4.2%	4.2%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	100.0%
10年以上 (n=129)	48	7	9	3	7	19	36	0	0	129
	37.2%	5.4%	7.0%	2.3%	5.4%	14.7%	27.9%	0.0%	0.0%	100.0%



Q2 居住形態×Q3

居住形態別に就労状況を見ると、「一人暮らし（在宅サービスの利用なし）」の患者の50%が「働いている」と回答した。家族と同居しており在宅サービスを利用していない患者で「働いている」のは39.2%だった。

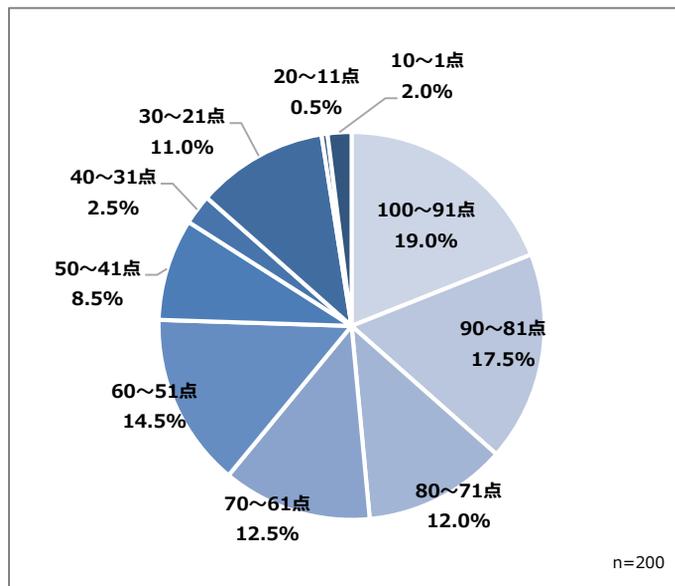
	働いていない	働いていないが、デイケアに通っている	働いていないが、就労移行支援事業を利用している	就職・復職を目指して、就労移行支援事業を利用している	自宅での家事手伝い	専業主婦・主夫（家事全般を一人で担当している）	働いている（障がい者枠）	働いている（障がい者枠以外）	学校に通っている	その他	n %
家族と同居（在宅サービスの利用なし）(n=153)	63 41.2%	4 2.6%	11 7.2%	4 2.6%	11 7.2%	23 15.0%	37 24.2%	0 0.0%	0 0.0%	153 100.0%	
家族と同居（訪問看護・居宅介護・ショートステイを利用）(n=8)	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%	
一人暮らし（在宅サービスの利用なし）(n=32)	13 40.6%	2 6.3%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	4 12.5%	12 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	32 100.0%	
一人暮らし（訪問看護・居宅介護を利用）(n=7)	4 57.1%	0 0.0%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%	
グループホーム・ケアホーム入居中(n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
老人ホーム入居中(n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
その他(n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	



Q4.あなたの現在の状態について、1～100の点数で表すと何点になりますか。
下の表を参考に、あてはまるものを選んでください。

機能の全体的評定（GAF）尺度について、自己申告で10段階から選択してもらったところ、「100～91点」が最も多く19.0%、次いで、「90～81点」（17.5%）、「60～51点」（14.5%）と続き、3/4が50点以上と答えた。

n=200		(SA)	
	n	%	
100～91点	38	19.0%	
90～81点	35	17.5%	
80～71点	24	12.0%	
70～61点	25	12.5%	
60～51点	29	14.5%	
50～41点	17	8.5%	
40～31点	5	2.5%	
30～21点	22	11.0%	
20～11点	1	0.5%	
10～1点	4	2.0%	
総数	200	100.0%	

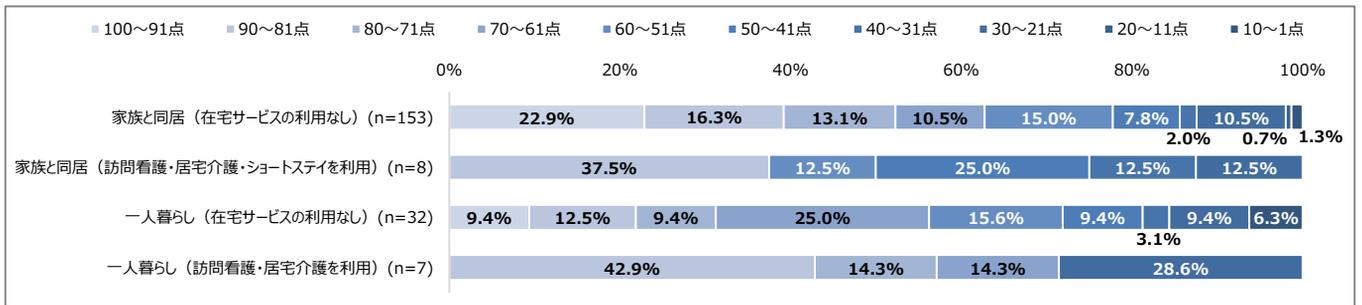


点数	生活状態の目安	仕事状況の目安
100～91	症状はまったくなく、ふだんの行動で支障を感じたり、日常生活で手に負えないものも何もない	仕事をしている、または主夫・主婦として家事を担当している
90～81	症状はほとんどなく、あるとしても試験前などに軽い不安を感じる程度。たまに家族と口論するなど、ありふれた問題はあがるが、生活に概ね満足している。いろいろな活動にも興味をもって参加したりと、社会的に過ごしている	
80～71	家族と口論した後集中できなくなるなど、ストレスを感じる場面で一時的な症状はあるが、社会生活をするうえで支障はごくわずかで、あっても学校で一時的に授業についていけないことがある程度	
70～61	気分の落ち込みや軽い不安がある程度の、軽い症状がある。または、ずる休みをすることがあったり、家のお金を盗んだりするなど、社会生活上でいくつか問題はあるものの、全体的には大きな問題はなく、人間関係も悪くない	
60～51	喜怒哀楽が少ない、会話がまわりくどい、時々発作的に恐怖を感じるなどの中程度の症状がある。または、友達が少なかったり、学校や職場で仲間や同僚とどうしてもうまくやっけていけないなど、中程度の障害がある	
50～41	死んでしまいたいと思うことがあったり、ある行為をせすにいらなかったり、万引きを繰り返すなどの重い症状がある。または、友達がいない、仕事が続かないなど、社会生活を送る上で大きな障害がある	就労移行支援事業を利用している
40～31	会話をあまりしない、論理的に話せない、脈絡のないことばかり言ってしまうなど、現実を受け止めることや自分の意思を伝えるうえでいくらか問題がある。または、大人の場合は気分が落ち込んで人付き合いを避け、家族とも会話がなくて仕事もしなかったり、子どもの場合は年下の子どもを殴ることがあり、家でも反抗的なうえ、学校では勉強ができないなど、社会生活を送る上で多くの面で障害がある	デイケアに通っている
30～21	妄想や幻覚に影響されている。または、支離滅裂なことを言ったり、その場にふさわしくない行動をしたり、いつも自殺したいと考えているなど、自分の意志を伝えるうえで問題が多い。または、一日中床についている、仕事も家庭も友達もないなど、社会生活上のほとんどすべての面で障害がある	働いていない・何もしていない
20～11	死ぬことを予期しないままに自殺を図ったり、暴力的だったり、興奮しやすいなど、自分や他人を傷つける危険がある。または、大便を塗りたくるなど、身の回りを最低限きれいに保つておくことができない。または、非常に支離滅裂なことを言ったり、まったく何も言わないなど、自分の意志を伝えることに重大な障害がある	
10～1	繰り返し暴力をふるうなど、自分や他人をひどく傷つける危険が続いている。または、頻りに大便を塗りたくるなど、身の回りを最低限きれいに保つことができない状態が続いている。または、死ぬとわかったうえで自殺しようとする	

Q2 居住形態×Q4

家族と同居している患者（在宅サービスの利用なし）の22.9%は自己申告でのGAFが91点以上で、GAF51点以上の割合は77.8%だった。一方、一人暮らしの患者（在宅サービスの利用なし）では、GAFが91点以上と回答したのは9.4%で、51点以上の割合は71.9%だった。

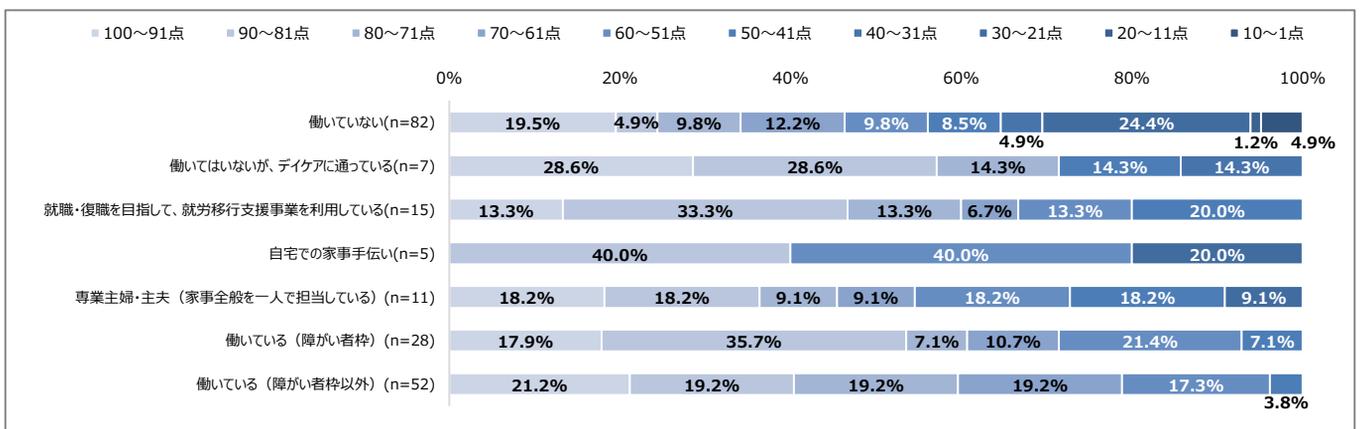
	90点以下	80~89点	70~79点	60~69点	50~59点	40~49点	30~39点	20~29点	10~19点	10点以下	n
家族と同居（在宅サービスの利用なし）(n=153)	35	25	20	16	23	12	3	16	1	2	153
	22.9%	16.3%	13.1%	10.5%	15.0%	7.8%	2.0%	10.5%	0.7%	1.3%	100.0%
家族と同居（訪問看護・居宅介護・ショートステイを利用）(n=8)	0	3	0	0	1	2	1	1	0	0	8
	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	100.0%
一人暮らし（在宅サービスの利用なし）(n=32)	3	4	3	8	5	3	1	3	0	2	32
	9.4%	12.5%	9.4%	25.0%	15.6%	9.4%	3.1%	9.4%	0.0%	6.3%	100.0%
一人暮らし（訪問看護・居宅介護を利用）(n=7)	0	3	1	1	0	0	0	2	0	0	7
	0.0%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	100.0%
グループホーム・ケアホーム入居中(n=0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
老人ホーム入居中(n=0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他(n=0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



Q3 就労状況×Q4

障がい者枠以外で働いている患者のGAFは、91~100点が最多で21.2%、81~90点、71~80点、61~70点はそれぞれ19.2%だった。障がい者枠で働いている患者では、81~90点が最も多く35.7%、次いで、51~60点（21.4%）、91~100点（17.9%）だった。働いていない患者では、21~30点が最多で24.4%、91~100点（19.5%）、61~70点（12.2%）と続いた。

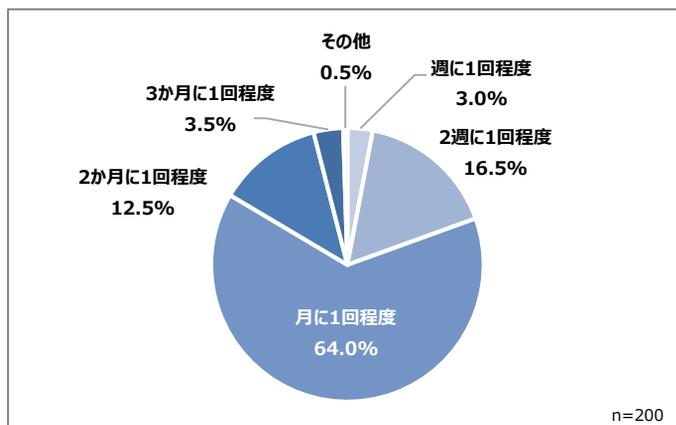
	90点以下	80~89点	70~79点	60~69点	50~59点	40~49点	30~39点	20~29点	10~19点	10点以下	n
働いていない(n=82)	16	4	8	10	8	7	4	20	1	4	82
	19.5%	4.9%	9.8%	12.2%	9.8%	8.5%	4.9%	24.4%	1.2%	4.9%	100.0%
働いてはいないが、デイケアに通っている(n=7)	2	2	1	0	0	1	1	0	0	0	7
	28.6%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
就職・復職を目指して、就労移行支援事業を利用している(n=15)	2	5	2	1	2	3	0	0	0	0	15
	13.3%	33.3%	13.3%	6.7%	13.3%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
自宅での家事手伝い(n=5)	0	2	0	0	2	0	0	1	0	0	5
	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
専業主婦・主夫（家事全般を一人で担当している）(n=11)	2	2	1	1	2	2	0	1	0	0	11
	18.2%	18.2%	9.1%	9.1%	18.2%	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	100.0%
働いている（障がい者枠）(n=28)	5	10	2	3	6	2	0	0	0	0	28
	17.9%	35.7%	7.1%	10.7%	21.4%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
働いている（障がい者枠以外）(n=52)	11	10	10	10	9	2	0	0	0	0	52
	21.2%	19.2%	19.2%	19.2%	17.3%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
学校に通っている(n=0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他(n=0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



Q5.現在、統合失調症の治療のために、どのくらいの頻度で通院していますか。最もあてはまるものを教えてください。

通院頻度は「月に1回程度」が最も多く64.0%で、「2週に1回程度」(16.5%)、「2か月に1回程度」(12.5%)と続いた。

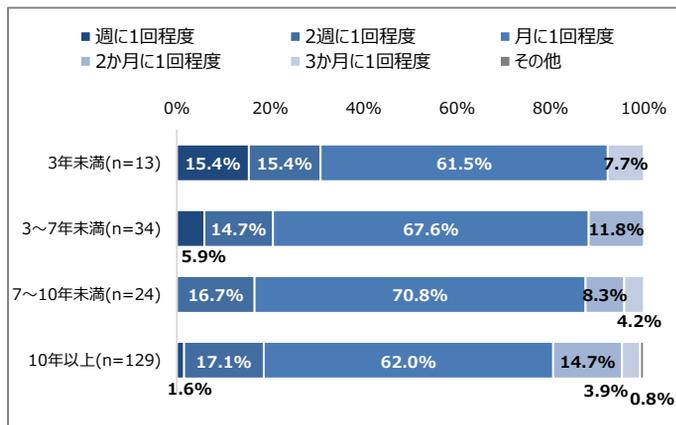
n=200	(SA)	
	n	%
週に1回程度	6	3.0%
2週に1回程度	33	16.5%
月に1回程度	128	64.0%
2か月に1回程度	25	12.5%
3か月に1回程度	7	3.5%
その他	1	0.5%
総数	200	100.0%



Q1 罹患歴×Q5

診断後の年数に関わらず、通院頻度は「月に1回程度」が6~7割を占めた。「週に1回程度」は診断後3年未満の患者で最も多く(15.4%)、「2か月に1回程度」は診断後10年以上の患者で最も多かった(14.7%)。

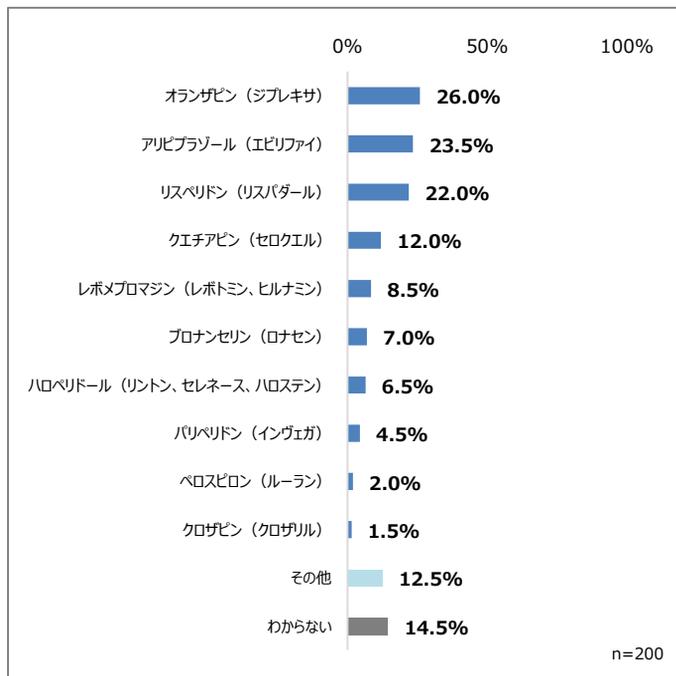
	週に1回程度	2週に1回程度	月に1回程度	2か月に1回程度	3か月に1回程度	その他	n
3年未満(n=13)	2	2	8	0	1	0	13
3年未満(n=13)	15.4%	15.4%	61.5%	0.0%	7.7%	0.0%	100.0%
3~7年未満(n=34)	2	5	23	4	0	0	34
3~7年未満(n=34)	5.9%	14.7%	67.6%	11.8%	0.0%	0.0%	100.0%
7~10年未満(n=24)	0	4	17	2	1	0	24
7~10年未満(n=24)	0.0%	16.7%	70.8%	8.3%	4.2%	0.0%	100.0%
10年以上(n=129)	2	22	80	19	5	1	129
10年以上(n=129)	1.6%	17.1%	62.0%	14.7%	3.9%	0.8%	100.0%



Q6.【複数回答】現在服用中の統合失調症のお薬を教えてください。内服薬のみを教えてください。

「オランザピン」(52例/26.0%)、「アリピプラゾール」(47例/23.5%)、「リスベリドン」(44例/22.0%)との回答が多かった。

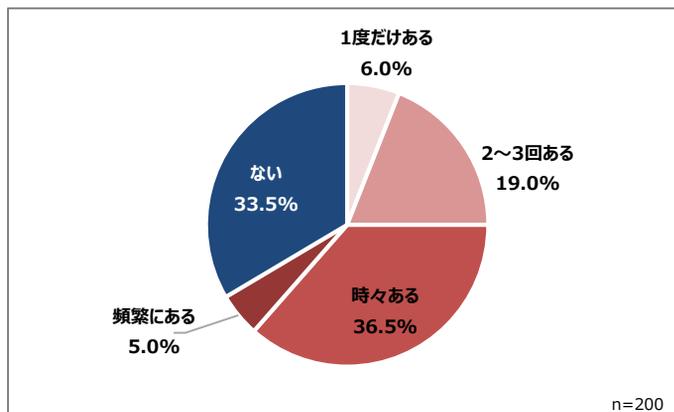
n=200	(MA)	
	n	%
オランザピン (ジプレキサ)	52	26.0%
アリピプラゾール (エビリファイ)	47	23.5%
リスベリドン (リスパダール)	44	22.0%
クエチアピン (セロクエル)	24	12.0%
レボメプロマジン (レボトミン、ヒルナミン)	17	8.5%
プロナセリン (ロナセン)	14	7.0%
ハロペリドール (リントン、セレネース、ハロステン)	13	6.5%
パリペリドン (インヴェガ)	9	4.5%
ペロスピロン (ルーラン)	4	2.0%
クロザピン (クロザリル)	3	1.5%
その他	25	12.5%
わからない	29	14.5%
総数	200	140.5%



Q7.統合失調症の治療薬を飲み忘れた（飲まなかった）経験はありますか。

治療薬の飲み忘れについて、「時々ある」との回答が36.5%と最も多かった。次点で、飲み忘れたことは「ない」（33.5%）との答えが続いた。「1度だけある」を含む、飲み忘れ経験者は133名（66.5%）に上った。

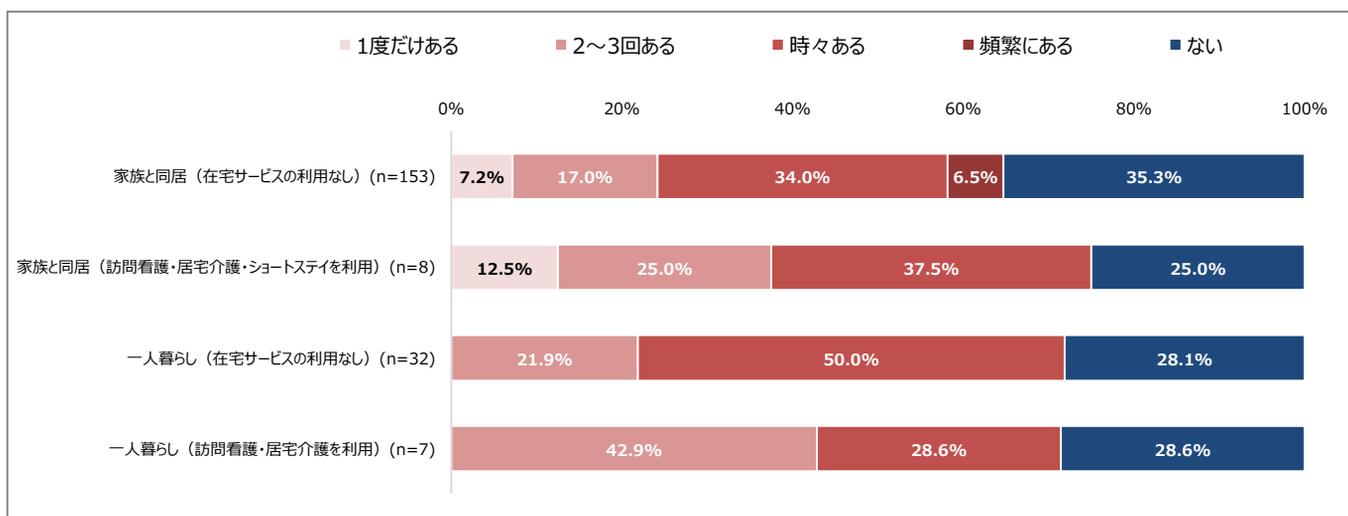
n=200		(SA)	
	n	%	
1度だけある	12	6.0%	
2～3回ある	38	19.0%	
時々ある	73	36.5%	
頻繁にある	10	5.0%	
ない	67	33.5%	
総数	200	100.0%	



Q2 居住形態×Q7

一人暮らしで在宅サービスを利用していない患者の50%が、薬の飲み忘れが「時々ある」と回答した。家族と同居している患者（在宅サービスの利用なし）では、飲み忘れが「ない」との回答が最も多く35.3%である一方、「頻繁にある」も6.5%とほかの居住形態に比べ多かった。

	1度だけある	2～3回ある	時々ある	頻繁にある	ない	n
家族と同居（在宅サービスの利用なし）(n=153)	11	26	52	10	54	153
	7.2%	17.0%	34.0%	6.5%	35.3%	100.0%
家族と同居（訪問看護・居宅介護・ショートステイを利用）(n=8)	1	2	3	0	2	8
	12.5%	25.0%	37.5%	0.0%	25.0%	100.0%
一人暮らし（在宅サービスの利用なし）(n=32)	0	7	16	0	9	32
	0.0%	21.9%	50.0%	0.0%	28.1%	100.0%
一人暮らし（訪問看護・居宅介護を利用）(n=7)	0	3	2	0	2	7
	0.0%	42.9%	28.6%	0.0%	28.6%	100.0%
グループホーム・ケアホーム入居中(n=0)	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
老人ホーム入居中(n=0)	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他(n=0)	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

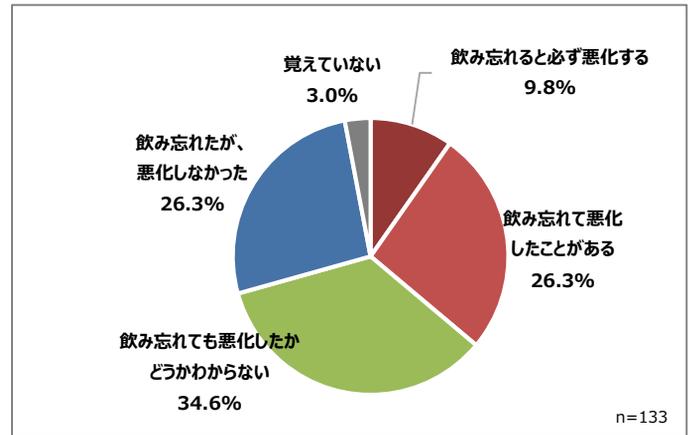


Q8.前問で「ある」と答えた方にお伺いします。飲み忘れたために、症状が悪くなった経験はありますか。

※Q7で「ある」と答えた人のみ回答

統合失調症の治療薬を飲み忘れた経験のある患者133例のうち、飲み忘れるによる症状の変化について、「悪化する」「悪化したことがある」と答えた患者は36.1%で、最も多い回答は「わからない」(34.6%)だった。

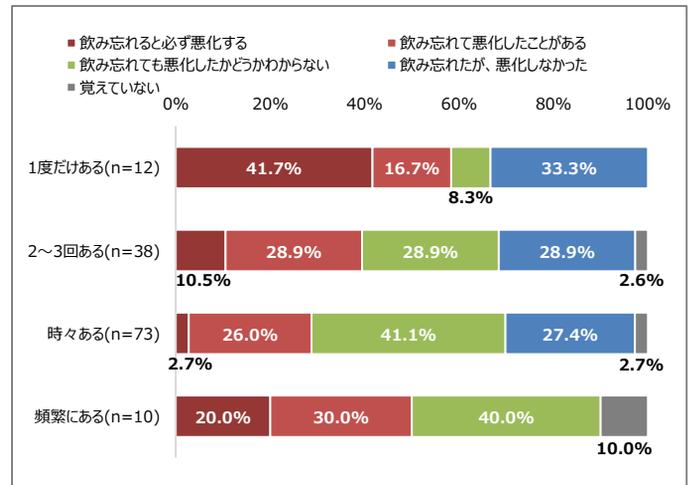
n=133	(SA)	
	n	%
飲み忘れると必ず悪化する	13	9.8%
飲み忘れて悪化したことがある	35	26.3%
飲み忘れても悪化したかどうかわからない	46	34.6%
飲み忘れたが、悪化しなかった	35	26.3%
覚えていない	4	3.0%
総数	133	100.0%



Q7 コンプライアンス×Q8

薬の飲み忘れが「時々ある」と回答した患者は、飲み忘れによる症状悪化については「わからない」との回答が最も多かった(41.1%)。飲み忘れが「2~3回ある」という患者では、症状が「悪化したことがある」「わからない」「悪化しなかった」がいずれも同等(28.9%)だった。飲み忘れが「1度だけ」の患者は、「飲み忘れると必ず悪化する」との回答が最も多かった(41.7%)。

	飲み忘れると必ず悪化する	飲み忘れて悪化したことがある	飲み忘れても悪化したかどうかわからない	飲み忘れたが、悪化しなかった	覚えていない	n
1度だけある(n=12)	5	2	1	4	0	12
2~3回ある(n=38)	4	11	11	11	1	38
時々ある(n=73)	2	19	30	20	2	73
頻繁にある(n=10)	2	3	4	0	1	10
ない(n=0)	0	0	0	0	0	0

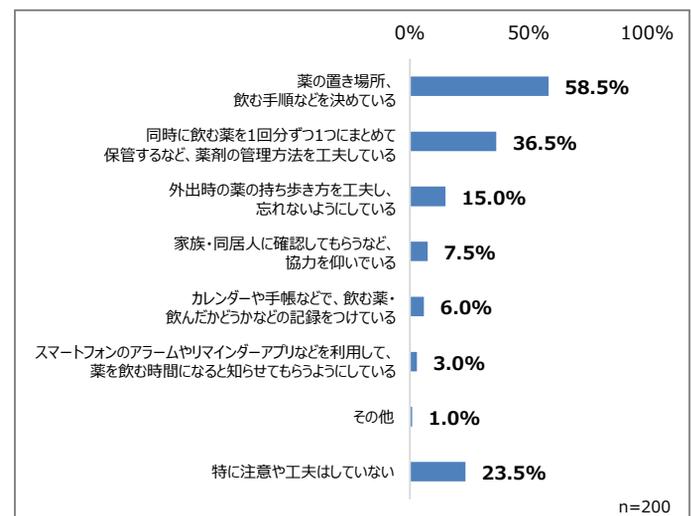


※「n=0」はグラフから排除

Q9.【複数回答】統合失調症の治療薬を飲み忘れないように、日頃から注意していること、工夫していることはありますか。

76.5%が何らかの注意や工夫をしていた。「薬の置き場所、飲む手順などを決めている」のは58.5%、「薬剤の管理方法を工夫している」が36.5%だった。

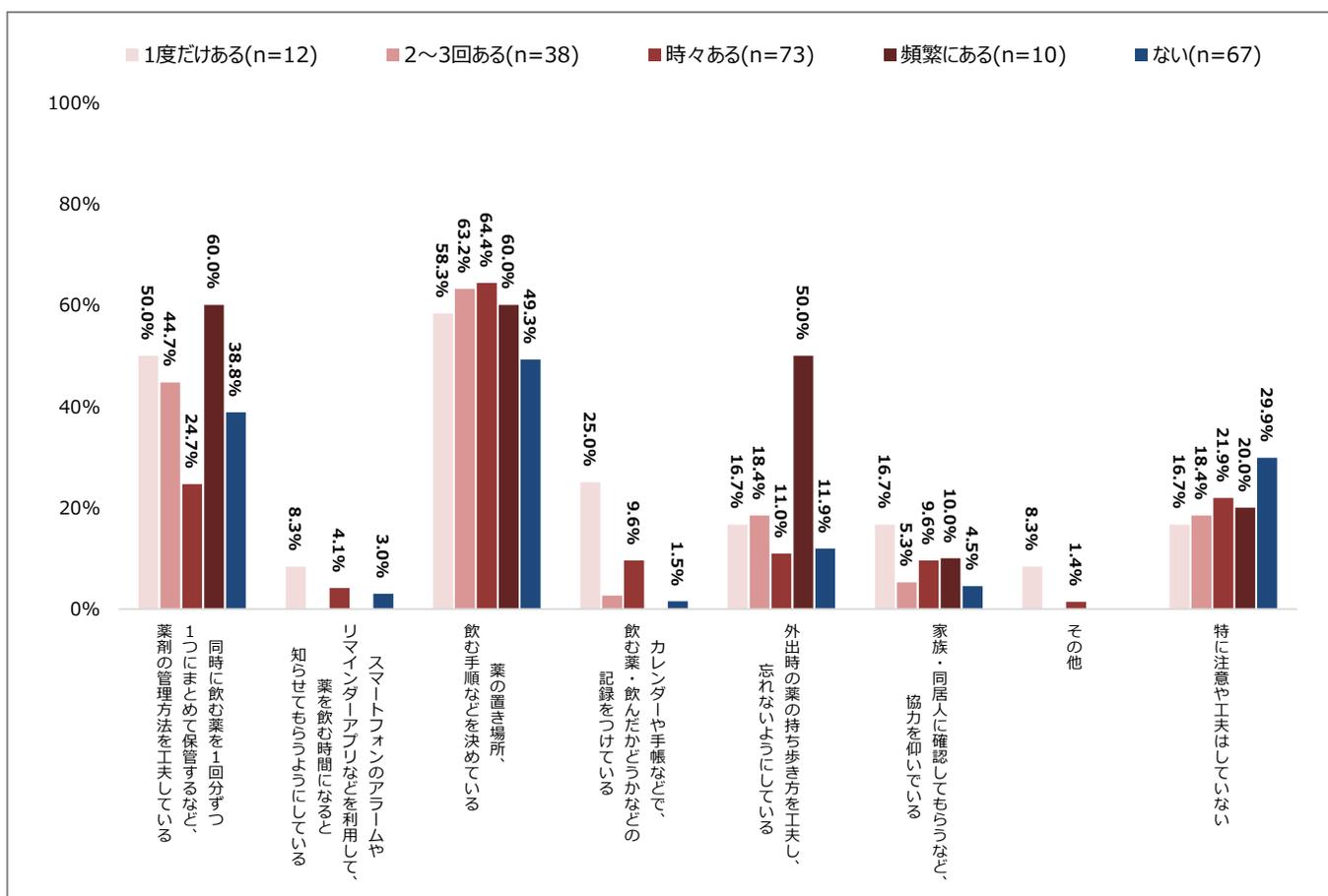
n=200	(MA)	
	n	%
薬の置き場所、飲む手順などを決めている	117	58.5%
同時に飲む薬を1回分ずつ1つにまとめて保管するなど、薬剤の管理方法を工夫している	73	36.5%
外出時の薬の持ち歩き方を工夫し、忘れないようにしている	30	15.0%
家族・同居人に確認してもらったり、協力を仰いでいる	15	7.5%
カレンダーや手帳などで、飲む薬・飲んだかどうかなどの記録をつけている	12	6.0%
スマートフォンのアラームやリマインダーアプリなどを利用して、薬を飲む時間になると知らせてもらうようにしている	6	3.0%
その他	2	1.0%
特に注意や工夫はしていない	47	23.5%
総数	200	151.0%



Q7 コンプライアンス×Q9

飲み忘れの頻度別にみた飲み忘れ対策では、飲み忘れが「時々ある」患者で「薬剤の管理方法を工夫している」割合が比較的低く（24.7%）、飲み忘れが「頻繁にある」患者は「外出時の薬の持ち歩き方を工夫している」割合が高かった（50.0%）。

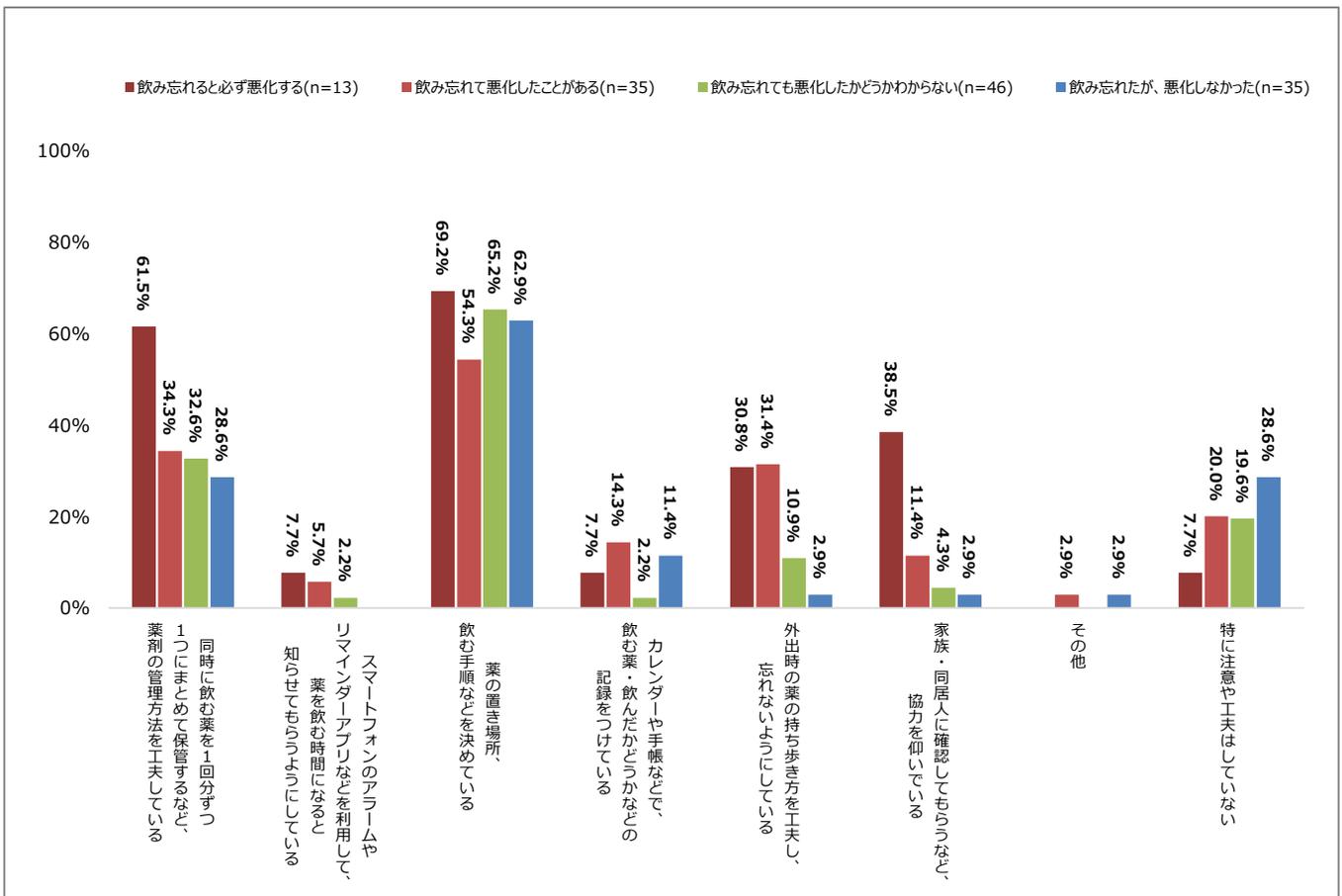
	同時に飲む薬を1回分ずつ1つにまとめて保管するなど、薬剤の管理方法を工夫している	スマートフォンアプリなどを利用して、薬を飲む時間になると知らせてもらうようにしている	薬の置き場所、飲む手順などを決めている	カレンダーや手帳などで、飲む薬・飲んだかどうかなどの記録をつけている	外出時の薬の持ち歩き方を工夫し、忘れないようにしている	家族・同居人に確認してもらうなど、協力を仰いでいる	その他	特に注意や工夫していない	n %
1度だけある(n=12)	6 50.0%	1 8.3%	7 58.3%	3 25.0%	2 16.7%	2 16.7%	1 8.3%	2 16.7%	12 200.0%
2~3回ある(n=38)	17 44.7%	0 0.0%	24 63.2%	1 2.6%	7 18.4%	2 5.3%	0 0.0%	7 18.4%	38 152.6%
時々ある(n=73)	18 24.7%	3 4.1%	47 64.4%	7 9.6%	8 11.0%	7 9.6%	1 1.4%	16 21.9%	73 146.6%
頻繁にある(n=10)	6 60.0%	0 0.0%	6 60.0%	0 0.0%	5 50.0%	1 10.0%	0 0.0%	2 20.0%	10 200.0%
ない(n=67)	26 38.8%	2 3.0%	33 49.3%	1 1.5%	8 11.9%	3 4.5%	0 0.0%	20 29.9%	67 138.8%



Q8 飲み忘れによる症状の変化×Q9

飲み忘れによる症状の変化別にみた飲み忘れ対策では、「飲み忘れると必ず悪化する」患者で「薬剤の管理方法を工夫している」(61.5%)、「家族の協力を仰いでいる」(38.5%)の割合がほかの群よりも高かった。「飲み忘れたが悪化しなかった」患者は「注意や工夫はしていない」との回答が28.6%とほかの群よりも多かった。

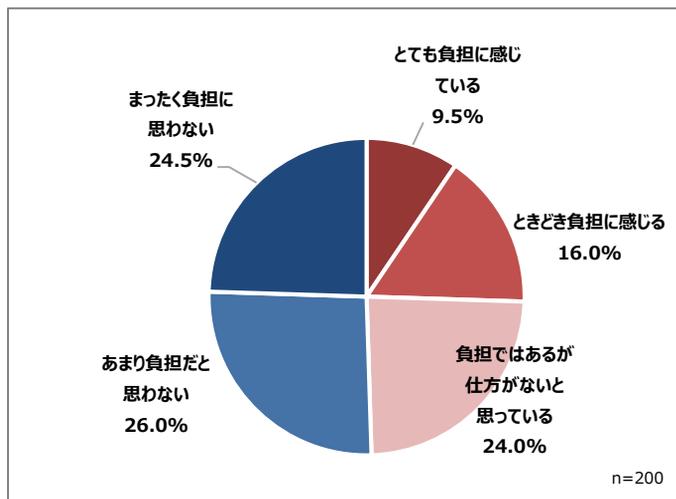
	同時に飲む薬を1回分ずつ1つにまとめて保管するなど、薬剤の管理方法を工夫している	スマートフォンのアラームやリマインダーアプリなどを利用して、薬を飲む時間になると知らせてもらうようにしている	薬の置き場所、飲む手順などを決めている	カレンダーや手帳などで、飲む薬・飲んだかどうかなどの記録をつけている	外出時の薬の持ち歩き方を工夫し、忘れないようにしている	家族・同居人に確認してもらうなど、協力を仰いでいる	その他	特に注意や工夫はしていない	n	%
飲み忘れると必ず悪化する(n=13)	8	1	9	1	4	5	0	1	13	61.5%
飲み忘れて悪化したことがある(n=35)	12	2	19	5	11	4	1	7	35	34.3%
飲み忘れても悪化したかどうかわからない(n=46)	15	1	30	1	5	2	0	9	46	32.6%
飲み忘れたが、悪化しなかった(n=35)	10	0	22	4	1	1	1	10	35	28.6%
覚えていない(n=4)	2	0	4	0	1	0	0	0	4	50.0%



Q10.毎日の服薬を負担に感じることはありますか。

何らかの負担を感じているのは49.5%だった。「あまり負担だと思わない」が26.0%、「まったく負担に思わない」との回答は24.5%だった。

	(SA)	
	n	%
とても負担に感じている	19	9.5%
ときどき負担を感じる	32	16.0%
負担ではあるが仕方がないと思っている	48	24.0%
あまり負担だと思わない	52	26.0%
まったく負担に思わない	49	24.5%
総数	200	100.0%



Q11.毎日の服薬で支障があると感じていることがあれば、具体的に教えてください。

以下に代表的な回答を示す。

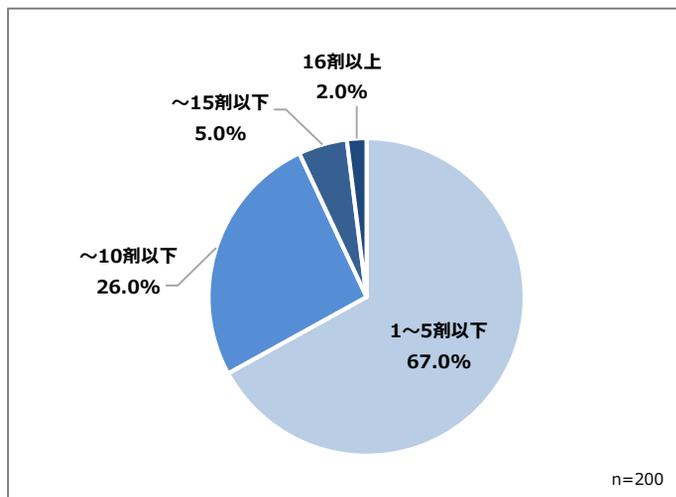
- ・「薬を飲み忘れていないか、不安がある」
- ・「飲み忘れないように気を付けること」
- ・「飲み忘れに気づいても、通勤中などで飲める状況でないことがある」
- ・「飲み忘れて落ち込むことがある」
- ・「旅行に行くときに持っていきのを忘れそうになる」
- ・「出かけたときに、薬を忘れてしまうことがある」
- ・「病気を知らせていない人の前で服薬することができない時、困る」
- ・「友達と外出した時など分からないように飲むのに苦労する」

- ・「毎日飲むのは面倒」
- ・「毎日の服薬がおっくう」
- ・「薬の持ち歩きが面倒」
- ・「飲み込みづらい」
- ・「のどを通らない」
- ・「うまく飲み込めない」
- ・「数が多いので飲み込むのが大変で憂鬱」

Q12.現在、服用しているお薬の数を教えてください。統合失調症以外のお薬も含めた合計の数を教えてください。複数回、複数錠飲んだとしても、同じ薬であれば1つと数えてください。

「5剤以下」が最も多く67.0%を占めた。次いで、「6剤以上10剤以下」が26.0%だった。

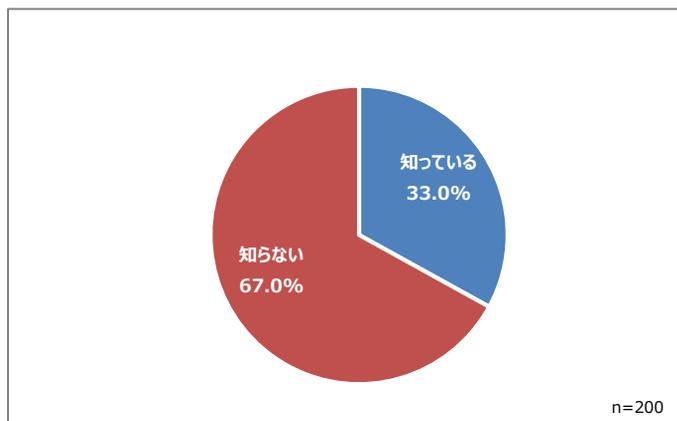
	(SA)	
	n	%
1～5剤以下	134	67.0%
～10剤以下	52	26.0%
～15剤以下	10	5.0%
16剤以上	4	2.0%
総数	200	100.0%



Q13.統合失調症の治療薬には、2～4週間に1回投与する注射薬があることを知っていますか。

33.0%が「知っている」と回答したものの、「知らない」が67%と大半を占めた。

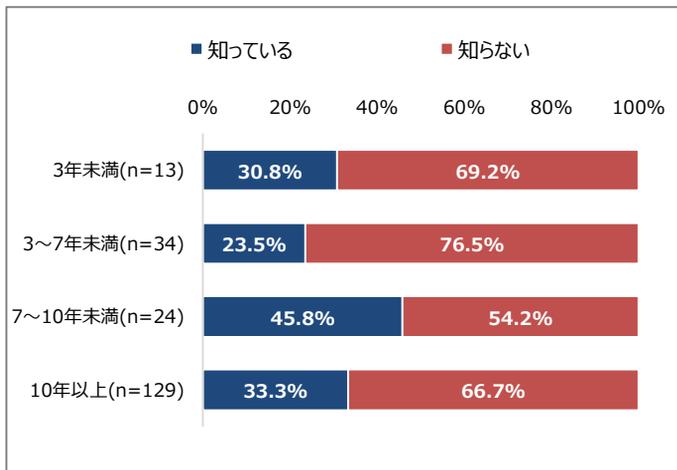
	n=200 (SA)	
	n	%
知っている	66	33.0%
知らない	134	67.0%
総数	200	100.0%



Q1.罹患歴×Q13

診断後の年数別に、注射薬を知っているかどうかをみたところ、「知っている」と答えた割合が最も多かったのは診断後「7～10年未満」で45.8%、次いで「10年以上」(33.3%)、「3年未満」(30.8%)だった。

	知っている	知らない	n %
3年未満(n=13)	4 30.8%	9 69.2%	13 100.0%
3～7年未満(n=34)	8 23.5%	26 76.5%	34 100.0%
7～10年未満(n=24)	11 45.8%	13 54.2%	24 100.0%
10年以上(n=129)	43 33.3%	86 66.7%	129 100.0%

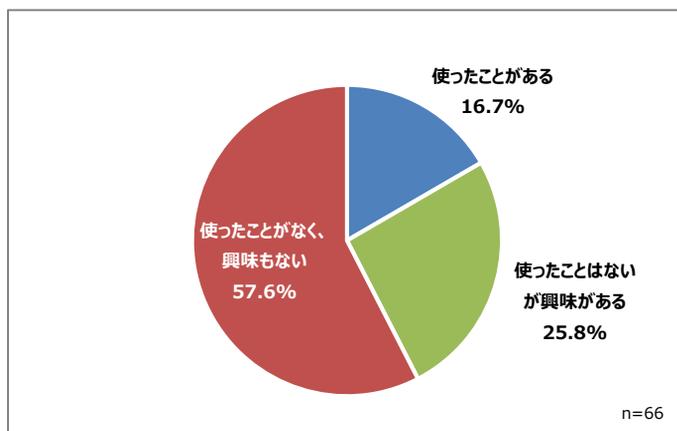


Q14.2～4週間に1回投与する統合失調症の注射薬を使ったことはありますか。

※Q13で「知っている」と答えた人のみ回答

「使ったことがある」のは16.7%、「使ったことはないが興味がある」と答えた患者も25.8%いた。「使ったことがなく、興味もない」の回答が57.6%と過半数を占めた。

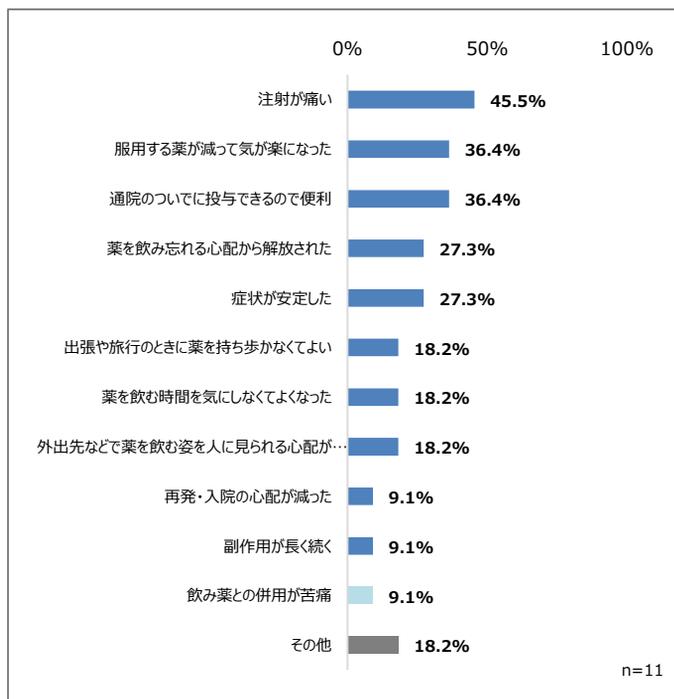
	n=66 (SA)	
	n	%
使ったことがある	11	16.7%
使ったことはないが興味がある	17	25.8%
使ったことがなく、興味もない	38	57.6%
総数	66	100.0%



Q15.【複数回答】2～4週間に1回投与する統合失調症の注射薬を使ってみた、あなたの感想に近いものをすべて選んでください。※Q14で「使ったことがある」と答えた人のみ回答

注射薬を使ったことがある患者の感想として、「注射が痛い」（45.5%）、「服用する薬が減って気が楽になった」（36.4%）、「通院のついでに投与できるので便利」（36.4%）が多かった。

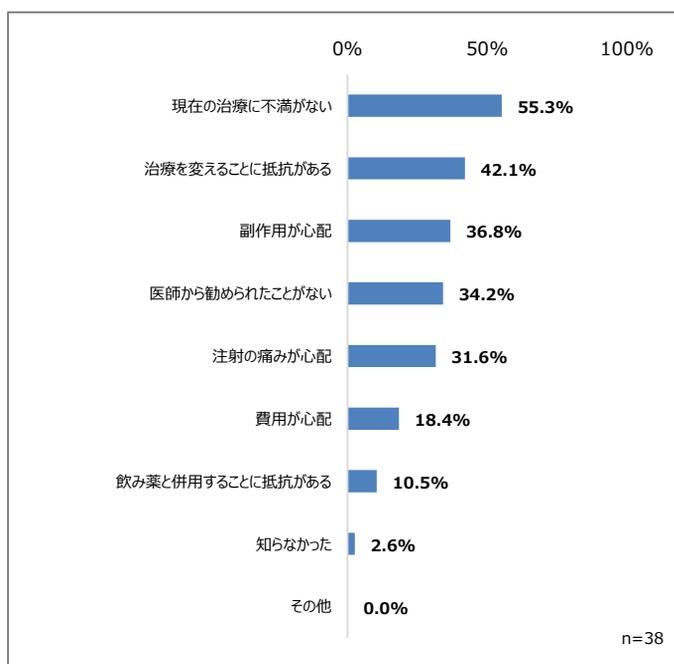
n=11		(MA)
	n	%
注射が痛い	5	45.5%
服用する薬が減って気が楽になった	4	36.4%
通院のついでに投与できるので便利	4	36.4%
薬を飲み忘れる心配から解放された	3	27.3%
症状が安定した	3	27.3%
出張や旅行のときに薬を持ち歩かなくてよい	2	18.2%
薬を飲む時間を気にしなくてよくなった	2	18.2%
外出先などで薬を飲む姿を人に見られる心配がない	2	18.2%
再発・入院の心配が減った	1	9.1%
副作用が長く続く	1	9.1%
飲み薬との併用が苦痛	1	9.1%
その他	2	18.2%
総数	11	272.7%



Q16.【複数回答】2～4週間に1回投与する統合失調症の注射薬を使わない理由として、あなたのお考えに近いものをすべて選んでください。※Q14で「使ったことがなく、興味もない」と答えた人のみ回答

「現在の治療に不満がない」（55.3%）が最も多く、「治療を変えることに抵抗がある」（42.1%）、「副作用が心配」（36.8%）、「医師から勧められたことがない」（34.2%）と続いた。

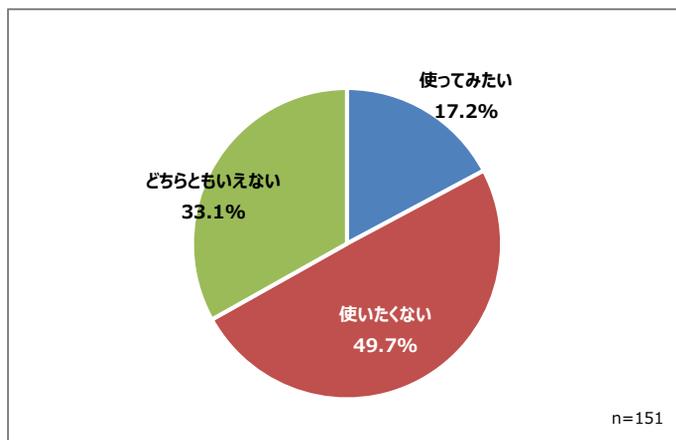
n=38		(MA)
	n	%
現在の治療に不満がない	21	55.3%
治療を変えることに抵抗がある	16	42.1%
副作用が心配	14	36.8%
医師から勧められたことがない	13	34.2%
注射の痛みが心配	12	31.6%
費用が心配	7	18.4%
飲み薬と併用することに抵抗がある	4	10.5%
知らなかった	1	2.6%
その他	0	0.0%
総数	38	231.6%



Q17.2～4週間に1回投与する統合失調症の注射薬を使ってみたいと思いますか。
 ※Q14で「使ったことがある」「使ったことがなく、興味もない」と答えた人以外回答

「使いたくない」との回答が最も多く49.7%で、「どちらともいえない」の33.1%が続いた。「使ってみたい」と回答したのは17.2%に留まった。

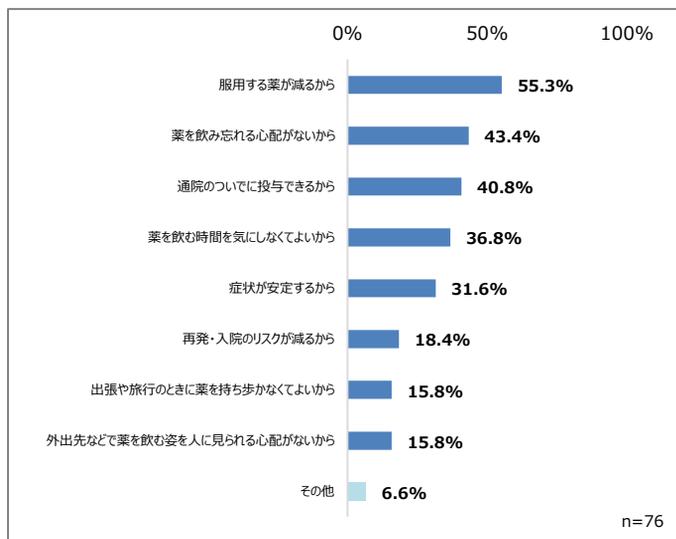
n=151	(SA)	
	n	%
使ってみたい	26	17.2%
使いたくない	75	49.7%
どちらともいえない	50	33.1%
総数	151	100.0%



Q18.【複数回答】2～4週間に1回投与する統合失調症の注射薬を使ってみたいと思う理由を教えてください。
 ※Q17で「使ってみたい」「どちらともいえない」と答えたひとのみ回答

「服用する薬が減るから」が55.3%と最も多く、「薬を飲み忘れる心配がないから」(43.4%)、「通院のついでに投与できるから」(40.8%)と続いた。

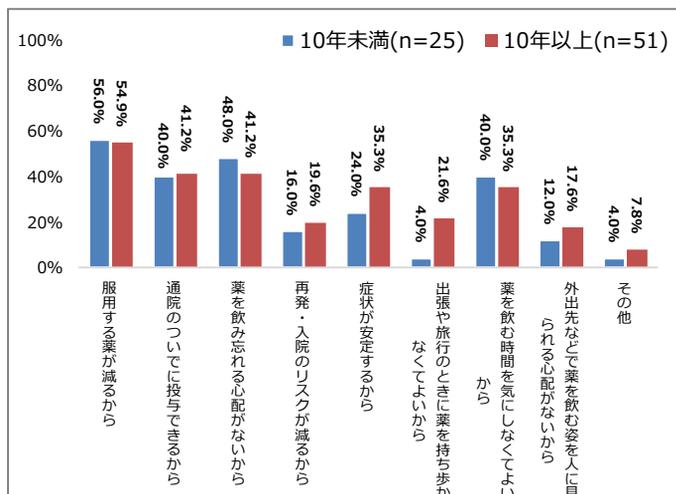
n=76	(MA)	
	n	%
服用する薬が減るから	42	55.3%
薬を飲み忘れる心配がないから	33	43.4%
通院のついでに投与できるから	31	40.8%
薬を飲む時間を気にしなくてよくなるから	28	36.8%
症状が安定するから	24	31.6%
再発・入院のリスクが減るから	14	18.4%
出張や旅行のときに薬を持ち歩かなくてよくなるから	12	15.8%
外出先などで薬を飲む姿を人に見られる心配がないから	12	15.8%
その他	5	6.6%
総数	76	264.5%



Q1.罹患歴（10年以上・10年未満）×Q18

診断後の年数を「10年未満」と「10年以上」に分けて、注射薬を使ってみたいと思う理由をみたところ、「薬を飲み忘れる心配がないから」「薬を飲む時間を気にしなくてよくなるから」では、診断後10年未満の患者のほうが多く（それぞれ48.0%対41.2%、40.0%対35.3%）、「症状が安定するから」「出張や旅行のときに薬を持ち歩かなくてよくなるから」では、診断後10年以上の患者のほうが多かった（それぞれ24.0%対35.3%、4.0%対21.6%）。

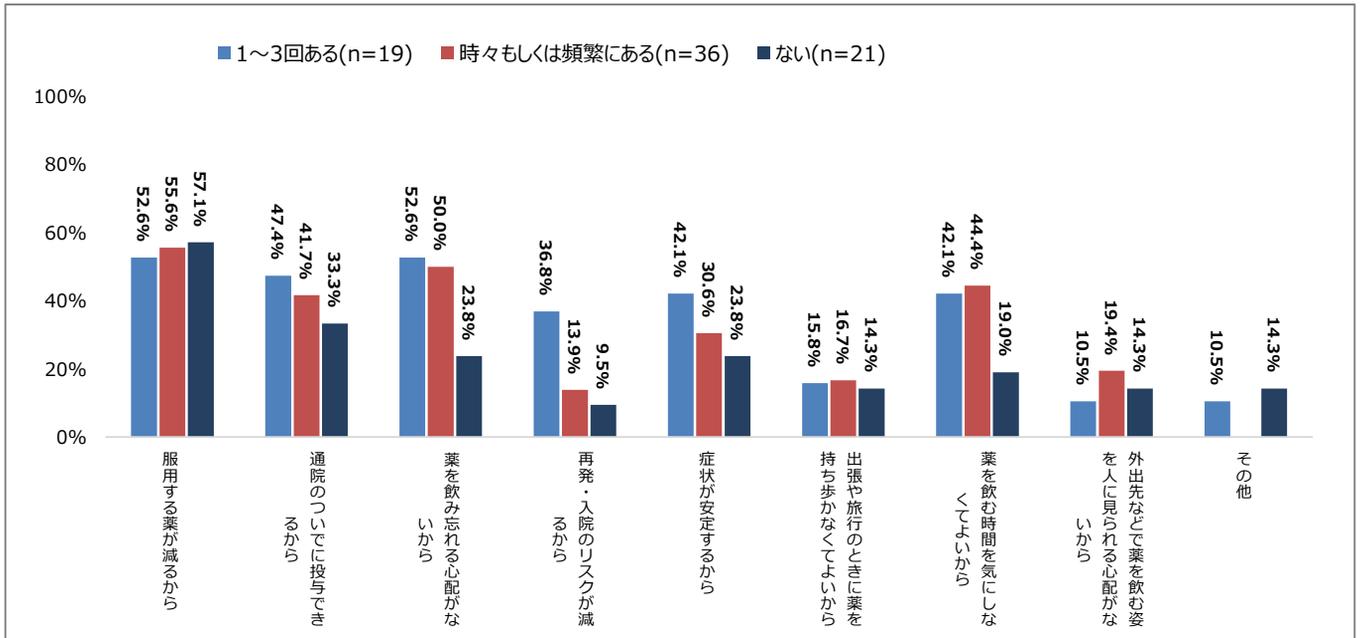
	服用する薬が減るから	通院のついでに投与できるから	薬を飲み忘れる心配がないから	再発・入院のリスクが減るから	症状が安定するから	出張や旅行のときに薬を持ち歩かなくてよくなるから	薬を飲む時間を気にしなくてよくなるから	外出先などで薬を飲む姿を人に見られる心配がないから	その他	n
10年未満(n=25)	56.0%	40.0%	48.0%	16.0%	24.0%	4.0%	40.0%	12.0%	4.0%	244.0%
	28	21	21	10	18	11	18	9	4	51
10年以上(n=51)	54.9%	41.2%	41.2%	19.6%	35.3%	21.6%	35.3%	17.6%	7.8%	274.5%



Q7 コンプライアンス×Q18

飲み忘れの頻度別にみた注射薬への期待では、飲み忘れの頻度に関わらず、「服用する薬が減る」ことへの期待が50%超と高かった。飲み忘れが「1〜3回ある」患者では「再発・入院のリスク減少」への期待がほかの群より大きかった(36.8%)。

	現在の治療に不満がない	治療を変えようと抵抗がある	費用が心配	痛みが注射の心配	副作用が心配	飲み薬と併用することに抵抗がある	勧められた医師から	その他	n	%
1度だけある(n=7)	4	4	1	4	2	3	2	1	7	300.0%
	57.1%	57.1%	14.3%	57.1%	28.6%	42.9%	28.6%	14.3%		
2〜3回ある(n=29)	10	6	14	10	16	4	17	0	29	265.5%
	34.5%	20.7%	48.3%	34.5%	55.2%	13.8%	58.6%	0.0%		
時々ある(n=42)	19	9	15	9	16	6	17	2	42	221.4%
	45.2%	21.4%	35.7%	21.4%	38.1%	14.3%	40.5%	4.8%		
頻繁にある(n=8)	1	5	5	3	4	1	2	0	8	262.5%
	12.5%	62.5%	62.5%	37.5%	50.0%	12.5%	25.0%	0.0%		
ない(n=39)	27	10	8	9	12	3	17	0	39	220.5%
	69.2%	25.6%	20.5%	23.1%	30.8%	7.7%	43.6%	0.0%		



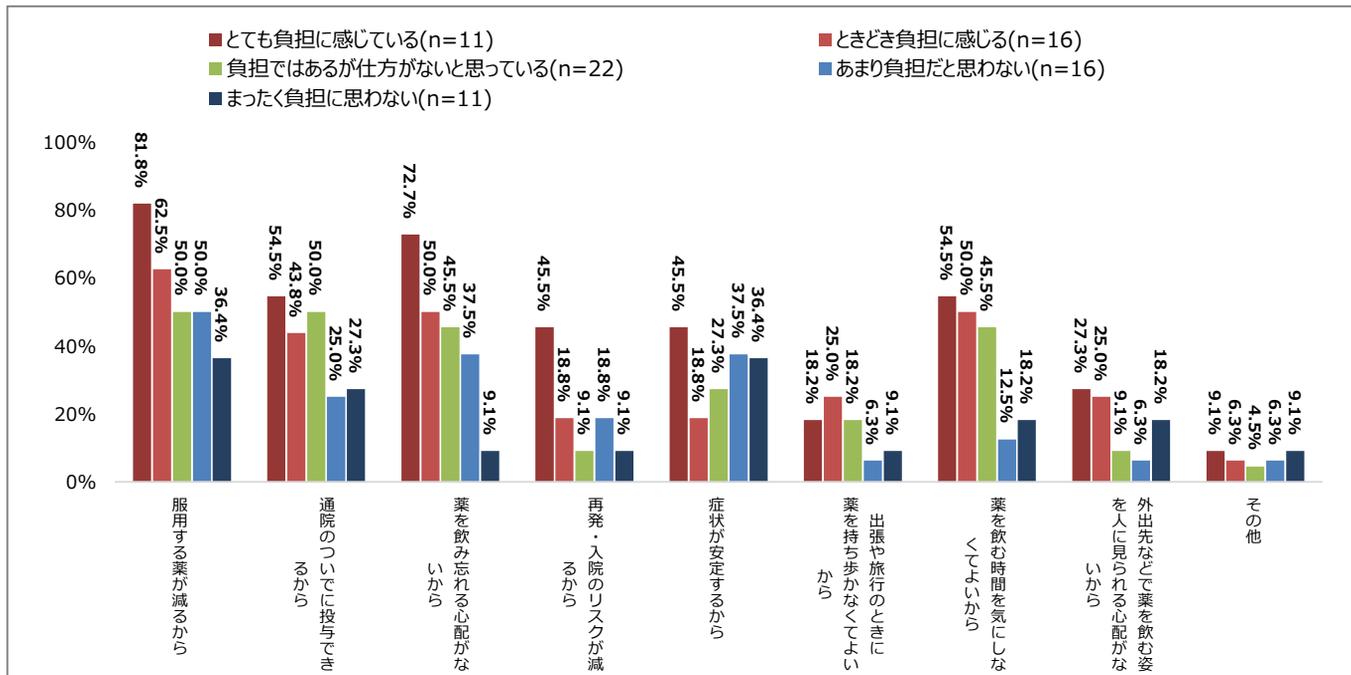
※「1度だけある」「2〜3回ある」を「1〜3回ある」に、「時々ある」「頻繁にある」を「時々もしくは頻繁にある」にまとめてグラフ化

Q10 服薬の負担感×Q18

服薬の負担感別に、注射薬を使用したい理由をみたところ、服薬を「とても負担に感じている」患者では、「服用する薬が減る」(81.8%)「飲み忘れる心配がない」(72.7%)、「症状が安定する」(45.5%)への期待がほかの群よりも大きかった。

	服用する薬が減るから	通院の回数が減るから	薬を飲み忘れる心配がないから	再発・入院のリスクが減るから	症状が安定するから	出張や旅行のときに薬を持ち歩かなくてよくなるから	薬を飲む時間を気にしなくてよくなるから	外出先などで薬を飲む姿を人に見られる心配がないから	その他	n	%
とても負担に感じている(n=11)	9	6	8	5	5	2	6	3	1	11	409.1%
	81.8%	54.5%	72.7%	45.5%	45.5%	18.2%	54.5%	27.3%	9.1%		
ときどき負担に感じる(n=16)	10	7	8	3	3	4	8	4	1	16	300.0%
	62.5%	43.8%	50.0%	18.8%	18.8%	25.0%	50.0%	25.0%	6.3%		
負担ではあるが仕方ないと思っている(n=22)	11	11	10	2	6	4	10	2	1	22	259.1%
	50.0%	50.0%	45.5%	9.1%	27.3%	18.2%	45.5%	9.1%	4.5%		
あまり負担だと思わない(n=16)	8	4	6	3	6	1	2	1	1	16	200.0%
	50.0%	25.0%	37.5%	18.8%	37.5%	6.3%	12.5%	6.3%	6.3%		
まったく負担に思わない(n=11)	4	3	1	1	4	1	2	2	1	11	172.7%
	36.4%	27.3%	9.1%	9.1%	36.4%	9.1%	18.2%	18.2%	9.1%		

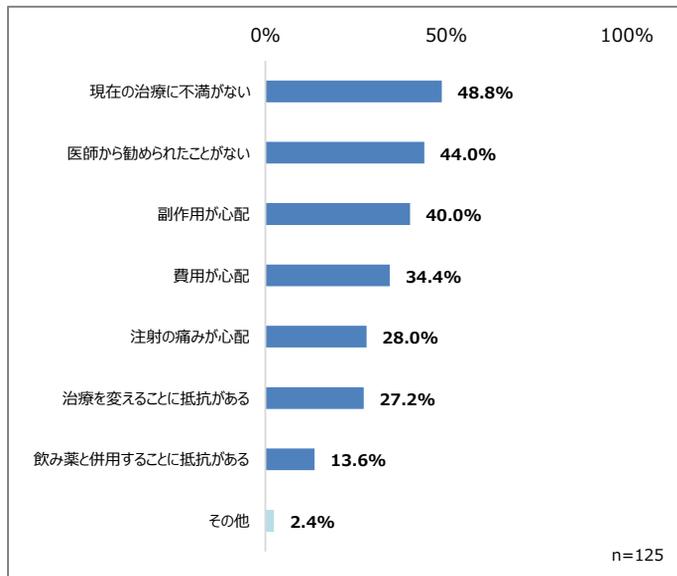
Q10 服薬の負担感×Q18 つづき



Q19.【複数回答】2～4週間に1回投与する統合失調症の注射薬を使いたくないと思う理由を教えてください。 ※Q17で「使いたくない」「どちらともいえない」と答えた人のみ回答

使いたくない理由として、「現在の治療に不満がない」が48.8%と最も多く、「医師から勧められたことがない」(44.0%)、「副作用が心配」(40.0%)と続いた。

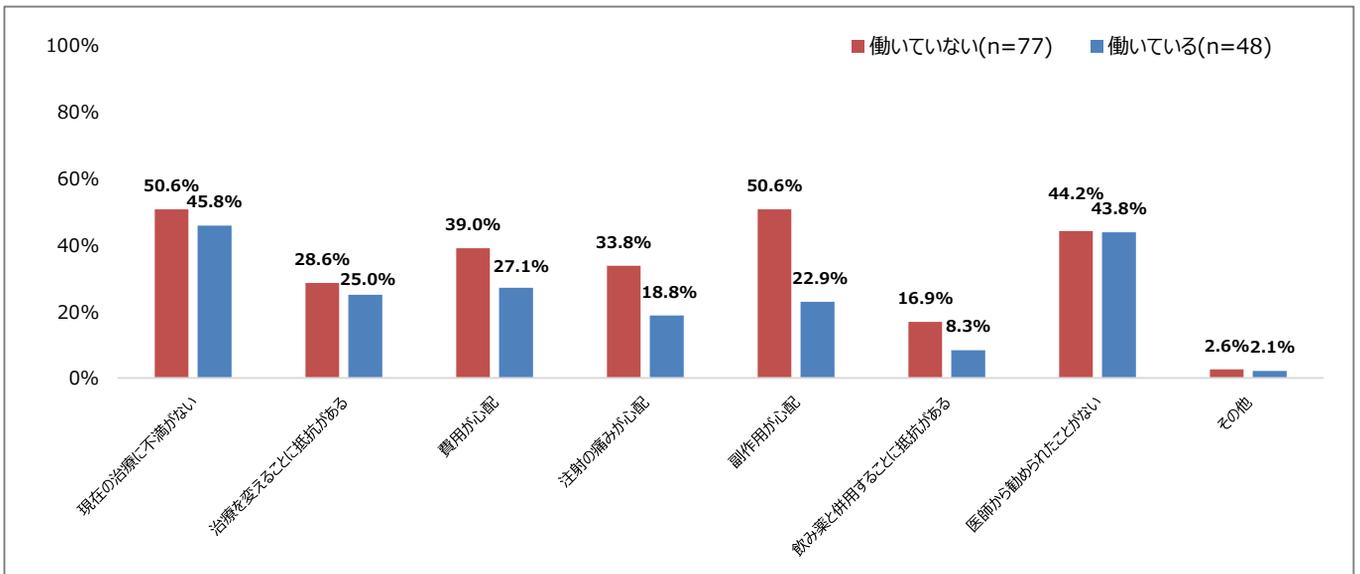
	n=125 (MA)	
	n	%
現在の治療に不満がない	61	48.8%
医師から勧められたことがない	55	44.0%
副作用が心配	50	40.0%
費用が心配	43	34.4%
注射の痛みが心配	35	28.0%
治療を変えることに抵抗がある	34	27.2%
飲み薬と併用することに抵抗がある	17	13.6%
その他	3	2.4%
総数	125	238.4%



Q3 就労状況×Q19

就労状況別に、注射薬を使用したくない理由をみたところ、「働いていない」患者では「副作用」への懸念が「働いていない」患者より多かった（50.6% vs. 22.9%）。また、「費用」「注射の痛み」に関する懸念も働いている患者より大きい傾向がみられた。

	現在の治療に 不満がない	治療を変える ことに抵抗が ある	費用が心配	注射の痛みが 心配	副作用が心配	飲み薬と併用 することに抵抗 がある	医師から勧め られたことが ない	その他	n %
働いていない(n=57)	27 47.4%	18 31.6%	24 42.1%	22 38.6%	31 54.4%	10 17.5%	26 45.6%	0 0.0%	57 277.2%
働いてはいるが、デイケアに通っている(n=4)	3 75.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	3 75.0%	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	4 300.0%
就職・復職を目指して、就労移行支援事業を利用している(n=9)	5 55.6%	2 22.2%	4 44.4%	2 22.2%	4 44.4%	2 22.2%	4 44.4%	0 0.0%	9 255.6%
自宅での家事手伝い(n=2)	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
専業主婦・主夫（家事全般を一人で担当している）(n=5)	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	3 60.0%	0 0.0%	5 200.0%
働いている（障がい者枠）(n=15)	7 46.7%	4 26.7%	3 20.0%	3 20.0%	3 20.0%	2 13.3%	8 53.3%	0 0.0%	15 200.0%
働いている（障がい者枠以外）(n=33)	15 45.5%	8 24.2%	10 30.3%	6 18.2%	8 24.2%	2 6.1%	13 39.4%	1 3.0%	33 190.9%
学校に通っている(n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
その他(n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%



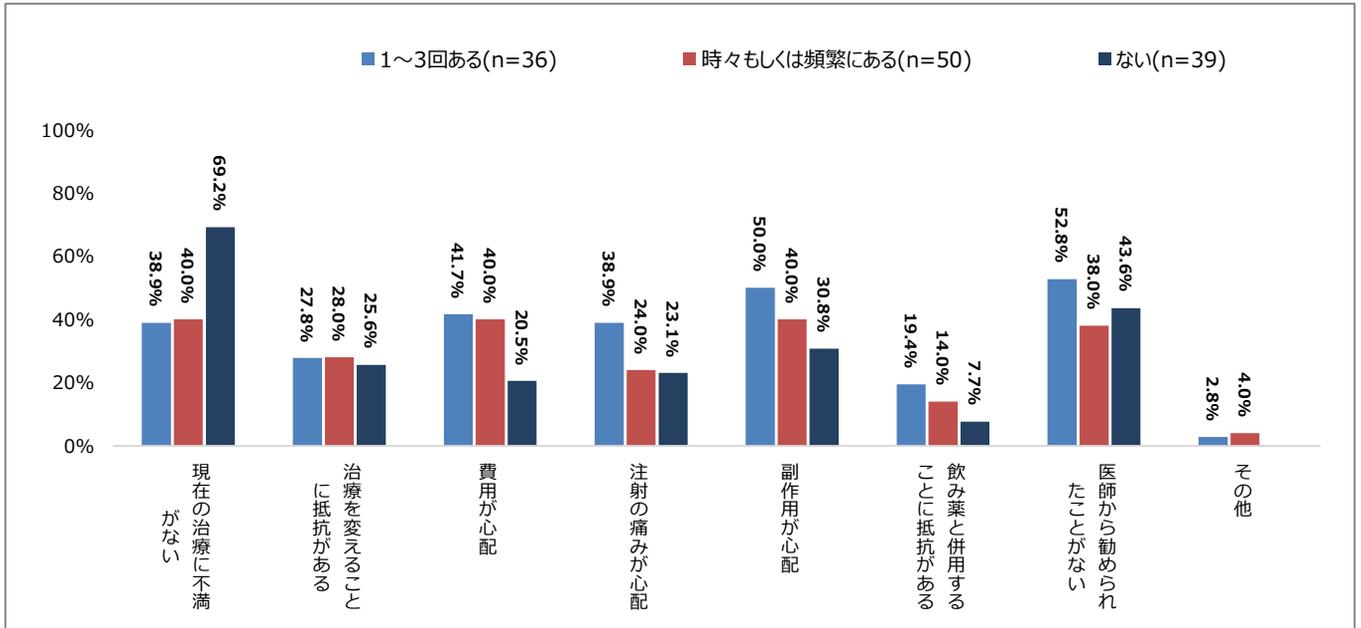
※各項目を、「働いている」「働いていない」の二つにまとめてグラフ化。

Q7 コンプライアンス×Q19

薬の飲み忘れの頻度別に、注射薬を使用したくない理由をみたところ、「飲み忘れがない」患者では「現在の治療に不満がない」が69.2%でほかの群よりも多かった。「飲み忘れが1～3回ある」患者では、「注射の痛み」への懸念が38.9%でほかの群よりも多かった。

	現在の治療に 不満がない	治療を変える ことに抵抗が ある	費用が心配	注射の痛みが 心配	副作用が心配	飲み薬と併用 することに抵抗 がある	医師から勧め られたことが ない	その他	n %
1度だけある(n=7)	4 57.1%	4 57.1%	1 14.3%	4 57.1%	2 28.6%	3 42.9%	2 28.6%	1 14.3%	7 300.0%
2～3回ある(n=29)	10 34.5%	6 20.7%	14 48.3%	10 34.5%	16 55.2%	4 13.8%	17 58.6%	0 0.0%	29 265.5%
時々ある(n=42)	19 45.2%	9 21.4%	15 35.7%	9 21.4%	16 38.1%	6 14.3%	17 40.5%	2 4.8%	42 221.4%
頻繁にある(n=8)	1 12.5%	5 62.5%	5 62.5%	3 37.5%	4 50.0%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	8 262.5%
ない(n=39)	27 69.2%	10 25.6%	8 20.5%	9 23.1%	12 30.8%	3 7.7%	17 43.6%	0 0.0%	39 220.5%

Q7 コンプライアンス×Q19 つづき

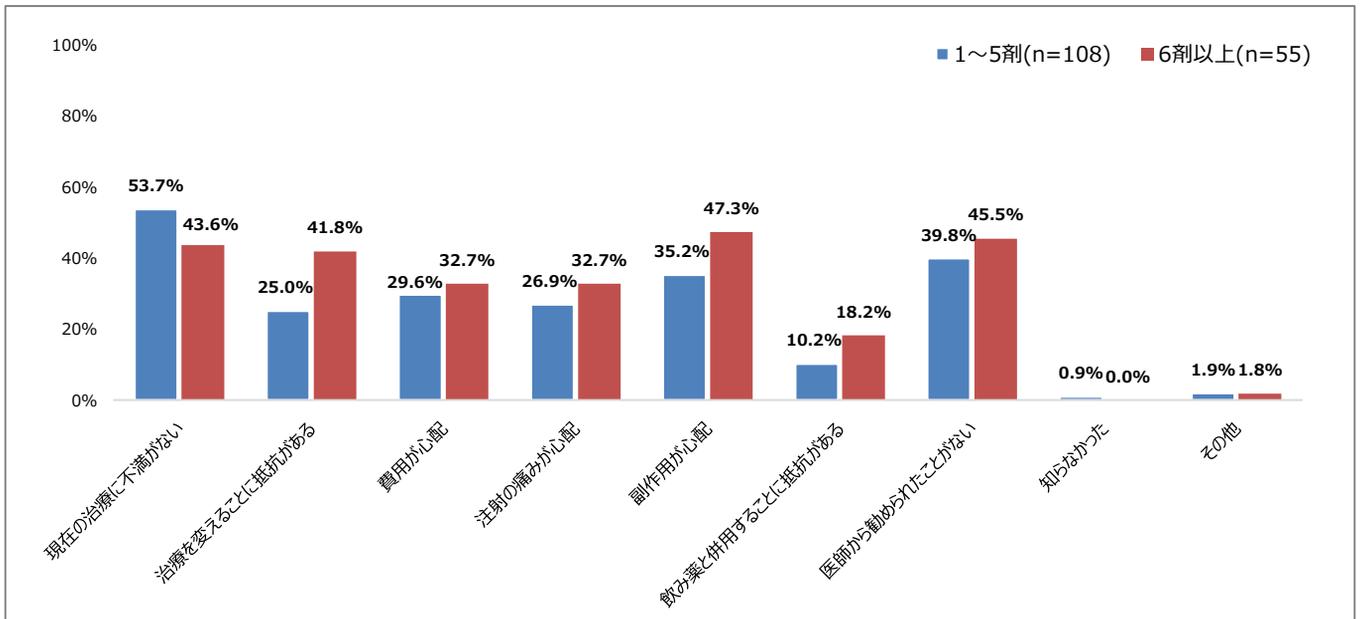


※「1度だけある」「2〜3回ある」を「1〜3回ある」に、「時々ある」「頻繁にある」を「時々もしくは頻繁にある」にまとめてグラフ化

Q12×Q16+Q19LAIを使用しない・使用したくない理由

服用中の薬の数別に、注射薬を使わない理由・使いたくない理由をみたところ、5剤以下では「現在の治療に不満がない」が最も多く（53.7%）、6剤以上を服用している患者では「副作用が心配」（47.3%）、「医師から勧められたことがない」（45.4%）、「現在の治療に不満がない」（43.6%）の順に多かった。

	現在の治療に不満がない	治療を変えることに抵抗がある	費用が心配	注射の痛みが心配	副作用が心配	飲み薬と併用することに抵抗がある	医師から勧められたことがない	知らなかった	その他	n
1〜5剤(n=108)	58 53.7%	27 25.0%	32 29.6%	29 26.9%	38 35.2%	11 10.2%	43 39.8%	1 0.9%	2 1.9%	108 223.1%
6剤以上(n=55)	24 43.6%	23 41.8%	18 32.7%	18 32.7%	26 47.3%	10 18.2%	25 45.5%	0 0.0%	1 1.8%	55 263.6%



Q20.【複数回答】2～4週間に1回投与する統合失調症の注射薬について、どのような情報を知りたいと思いますか。

「副作用について」知りたいという声が多く（66.0%）、次いで「薬の効き方について」（60.0%）、「費用について」（59.5%）と続いた。

n=200	(MA)	
	n	%
副作用について	132	66.0%
薬の効き方について	120	60.0%
費用について	119	59.5%
注射をしている当事者の声や意見	80	40.0%
注射の痛みについて	57	28.5%
その他	2	1.0%
総数	200	255.0%

